参考資料２－１

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

環境省の取組について（過去の取組）

令和８年 11 月 18 日

環境省 大臣官房環境保健部化学物質安全課 環境リスク評価室

目　次

１．企画評価
（１）企画評価委員会における検討
（２）エコチル調査実施機関の評価の概要
（３）エコチル調査の今後の展開等についての検討
（４）エコチル調査基本計画の改定について
（５）エコチル調査実施機関への支援
２．国際連携
（１）国際連携調査委員会の開催
（２）国際シンポジウムの開催
（３）環境と子どもの健康に関する国際作業グループ（Environment and Child Health International Group（ECHIG））
（４）国際小児がんコホートコンソーシアム（International Childhood Cancer Cohort Consortium（I4C））
（５）国際学会等への専門家派遣
（６）国際学会等への若手研究者派遣
（７）小児環境保健分野の研究者育成に対する取組
３．広報活動
（１）イベントの開催
（２）記者向け勉強会の実施
（３）ホームページ等による情報提供
（４）エコチル調査サポーター登録
（５）広報活動の効果測定と評価
（６）展示物の活用
（７）地域の子育て世代との対話
（８）エコチル調査の成果の情報発信
（９）関係機関の会議等における講演
（１０）広報戦略指針等の改定
（１１）その他の取組
４．倫理審査

１．企画評価

（１）企画評価委員会における検討

エコチル調査の企画評価については、企画評価委員会において検討いただいている。

平成 22 年度第１回 平成 22 年９月９日（木） 検討事項　エコチル調査の概要について説明 エコチル調査の実施状況について報告
平成 23 年度第１回 平成 23 年９月 29 日（木） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の評価の手法について了承
平成 23 年度第２回 平成 24 年１月 31 日（火） 検討事項　エコチル調査の年次評価について了承 エコチル調査における放射線被ばく量の扱いについて検討
平成 24 年度第１回 平成 24 年 10 月 15 日（月） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の実施に関する方針について検討 エコチル調査の中間評価の手法について了承
平成 24 年度第２回 平成 25 年２月４日（月） 検討事項　エコチル調査の中間評価について了承 エコチル調査の個人情報が記録された USB メモリーの紛失について報告 エコチル調査参加者の属性情報等の暫定集計結果について報告
平成 25 年度第１回 平成 25 年 10 月 17 日（木） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
平成 25 年度第２回 平成 26 年２月 28 日（金） 検討事項　エコチル調査の年次評価について了承 詳細調査計画の決定と実施に向けた準備状況について報告
平成 26 年度第１回 平成 26 年９月 29 日（月） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の中間評価の手法について了承
平成 26 年度第２回 平成 27 年３月６日（金） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の第２次中間評価について了承
平成 27 年度第１回 平成 27 年 10 月７日（水） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
平成 27 年度第２回 平成 28 年３月 14 日（月） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価について了承
平成 28 年度第１回 平成 28 年９月 13 日（火） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
平成 28 年度第２回 平成 29 年３月 24 日（金） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告

エコチル調査の年次評価について了承
平成 29 年度第１回 平成 29 年 10 月５日（木） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
平成 29 年度第２回 平成 30 年３月 15 日（木） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価について了承
平成 30 年度第１回 平成 30 年９月 27 日（木） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の第三次中間評価の手法について了承
平成 30 年度第２回 平成 31 年３月６日（水） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の第三次中間評価書について了承
令和元年度第１回 令和元年 10 月２日（水） 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
令和元年度第２回 令和２年３月４日（水）～３月 12 日（木）　※書面開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価について了承
令和２年度第１回 令和２年 10 月 14 日（水）　※Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
令和２年度第２回 令和３年３月３日（水）　※Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価について了承 エコチル調査の年次評価（令和３年度）の手法について了承
令和３年度第１回 令和３年 11 月 10 日（水）　※Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価の手法について了承
令和３年度第２回 令和４年３月９日（水）　※Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価について了承 エコチル調査の年次評価（令和４年度）の手法について了承
令和４年度第１回 令和４年７月 27 日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査基本計画の改定案について検討
令和４年度第２回 令和５年３月８日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の年次評価について了承 エコチル調査の第四次中間評価の手法について了承 エコチル調査基本計画の改定案について了承 生体試料分析対象物質候補（令和６年度）について了承
令和５年度第１回 令和５年９月 13 日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の第四次中間評価について検討

令和５年度第２回 令和６年３月６日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の第四次中間評価について了承 エコチル調査の年次評価（令和６年度）の手法について了承 生体試料分析対象物質候補（令和７年度）について了承
令和６年度第１回 令和６年９月４日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の令和６年度年次評価について検討
令和６年度第２回 令和７年３月５日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の令和６年度年次評価書について了承 エコチル調査の令和７年度年次評価について検討 生体試料分析対象物質候補（令和８年度）について了承 エコチル調査基本計画の骨子について了承
令和７年度第１回 令和７年 11 月 12 日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の令和７年度年次評価について検討 エコチル調査基本計画の改定について検討
令和７年度第２回 令和８年３月４日（水）　※会場及び Web 開催 検討事項　エコチル調査の実施状況について報告 エコチル調査の令和７年度年次評価書について了承 エコチル調査の令和８年度年次評価について検討 生体試料分析対象物質候補（令和９年度）について了承 エコチル調査基本計画改定に向けたタイムラインについて報告

（２）エコチル調査実施機関の評価の概要

①平成 23 年度年次評価（平成 23 年度）

検討経緯：

平成23年９月29日（木）　第１回エコチル調査企画評価委員会
平成23年10月25日（木）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成23年11月７日（月）～12月12日（月）　環境省により実地調査
平成23年12月19日（月）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成24年１月31日（火）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・リクルートにおける課題及び優良事例の収集・分析
・フォローアップにおける課題の早期把握

②第一次中間評価（平成 24 年度）

検討経緯：

平成24年10月15日（月）　第１回エコチル調査企画評価委員会
平成24年11月９日（金）　環境省により実地調査

～12月21日（金）
平成24年12月26日（水）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成25年１月25日（金）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成25年２月４日（月）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・リクルートの進捗状況、リクルート目標数及び目標カバー率の達成見込み、リクルートに関する要改善事項
・初期のフォローアップの進捗状況、進捗管理の状況、長期的なフォローアップの準備状況、フォローアップ率の見込み、フォローアップに関する要改善事項
・その他　平成 23 年度年次評価に関する改善内容等

③平成 25 年度年次評価（平成 25 年度）

検討経緯：

平成25年10月17日（木）　第１回エコチル調査企画評価委員会
平成25年11月７日（木）　環境省により実地調査
～12月19日（木）
平成25年12月24日（火）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成26年１月17日（金）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成26年２月28日（金）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・リクルートの進捗状況、リクルート目標数及び目標カバー率の達成見込み
・フォローアップの進捗状況、進捗管理の状況、フォローアップ率の見込み、フォローアップに関する要改善事項
・長期的なフォローアップの準備状況
・個人情報管理の状況
・その他　第一次中間評価に対する改善状況

④第二次中間評価（平成 26 年度）

検討経緯：

平成26年９月29日（月）　第１回エコチル調査企画評価委員会
平成26年10月９日（木）　環境省により実地調査
～11月19日（水）
平成26年12月16日（火）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成27年１月26日（月）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成27年３月６日（金）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・最終的なリクルート者数、達成率及びカバー率

・フォローアップの進捗状況、進捗管理の状況、フォローアップ率の見込み、フォローアップに関する要改善事項
・長期的なフォローアップの準備状況
・個人情報管理の状況
・データ入力精度管理に対しての状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・その他　平成 25 年度年次評価に対する改善状況

⑤平成 27 年度年次評価（平成 27 年度）

検討経緯：

平成27年10月７日（水）	第１回エコチル調査企画評価委員会
平成27年10月21日（水）～11月30日（月）	環境省により実地調査
平成28年１月25日（月）	第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成28年２月17日（水）	第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成28年３月14日（月）	第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップの準備状況
・詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・予算執行状況
・その他　第二次中間評価に対する改善内容

⑥平成 28 年度年次評価（平成 28 年度）

検討経緯：

平成28年９月13日（火）	第１回エコチル調査企画評価委員会
平成28年10月５日（水）～11月28日（月）	環境省により実地調査
平成29年１月11日（水）	第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成29年２月17日（金）	第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成29年３月24日（金）	第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップの準備状況
・詳細調査の実施状況

・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・その他（平成 27 年度年次評価に対する改善状況）

⑦平成 29 年度年次評価（平成 29 年度）

検討経緯：

平成29年10月５日（木）　第１回エコチル調査企画評価委員会
平成29年10月10日（火）～11月29日（水）　環境省により実地調査
平成30年１月12日（金）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成30年２月９日（金）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成30年３月15日（木）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップの準備状況
・詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・調査結果に関する広報活動の状況
・その他（平成 28 年度年次評価に対する改善状況）

⑧第三次中間評価（平成 30 年度）

検討経緯：

平成30年８月２日（木）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成30年９月27日（木）　第１回エコチル調査企画評価委員会
平成30年10月４日（木）～12月12日（水）　環境省により実地調査
平成31年２月20日（水）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
平成31年３月６日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・調査実施のための組織体制の妥当性
・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップに向けた準備状況
・詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績

・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・その他（平成 29 年度年次評価に対する改善状況）

⑨令和元年度年次評価（令和元年度）

検討経緯：

令和元年７月24日（水）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
令和元年９月25日（水）　環境省により実地調査
～12月19日（木）
令和元年10月２日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和元年12月25日（水）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
令和２年３月４日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会　※書面開催
～３月12日（木）

評価の視点：

・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップの準備状況
・詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）
・学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（第三次中間評価書を受けての取組状況）

⑩令和２年度年次評価（令和２年度）

検討経緯：

令和２年７月15日（水）　第１回エコチル調査評価ワーキンググループ
令和２年10月14日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和２年10月26日（月）　環境省により実地調査
～12月23日（水）
令和３年１月６日（水）　第２回エコチル調査評価ワーキンググループ
令和３年３月３日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップに向けた準備状況
・学童期検査、詳細調査の実施状況

・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）
・学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（令和元年度年次評価書を受けての取組状況）

⑪令和３年度年次評価（令和３年度）

検討経緯：

令和３年11月10日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和３年10月５日（火）～12月20日（月）　環境省により実地調査
令和４年１月26日（水）　エコチル調査評価ワーキンググループ
令和４年３月９日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップに向けた準備状況
・学童期検査、詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）
・学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（令和２年度年次評価書を受けての取組状況）

⑫令和４年度年次評価（令和４年度）

検討経緯：

令和４年７月27日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和４年９月27日（火）～12月14日（水）　環境省により実地調査
令和５年１月25日（水）　エコチル調査評価ワーキンググループ
令和５年３月８日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップに向けた準備状況（遺伝子解析の準備を含む）
・学童期検査、詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの順守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）
・エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章、学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（令和３年度年次評価書を受けての取組状況）

⑬第四次中間評価（令和５年度）

検討経緯：

令和５年９月13日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和５年８月31日（木）～12月15日（金）　環境省により実地調査
令和６年１月17日（水）　エコチル調査評価ワーキンググループ
令和６年３月６日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・フォローアップの進捗状況等
・長期的なフォローアップに向けた準備状況（13 歳以降の調査に係る準備を含む）
・学童期検査、詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの遵守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績（人材育成を含む）
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）
・エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章、学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（令和４年度年次評価書を受けての取組状況）

⑭令和６年度年次評価（令和６年度）

検討経緯：

令和６年９月４日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和６年８月５日（月）　環境省により実地調査
～11月29日（金）
令和７年１月30日（木）　エコチル調査評価ワーキンググループ
令和７年３月５日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・フォローアップの進捗状況等
・13 歳以降の調査に向けた準備状況
・学童期検査、詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの遵守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績（人材育成を含む）
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を含む）
・エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章、学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（第四次中間評価書を受けての取組状況）

⑮令和７年度年次評価（令和７年度）

検討経緯：

令和７年６月26日（木）　第１回エコチル調査企画評価ワーキンググループ
令和７年11月12日（水）　第１回エコチル調査企画評価委員会
令和７年７月30日（水）　環境省により実地調査
～11月14日（金）
令和８年１月23日（金）　第２回エコチル調査企画評価ワーキンググループ
令和８年３月４日（水）　第２回エコチル調査企画評価委員会

評価の視点：

・質問票回収状況の進捗等
・13 歳以降の調査に向けた準備状況や実施体制及び取組状況（継続率を含む）
・学童期検査、詳細調査の実施状況
・個人情報管理の状況
・データ利用及び成果発表のルールの遵守状況
・研究（追加調査等）の体制及び実績（人材育成を含む）
・調査結果に関する広報活動の状況
・環境政策・施策への反映
・コミュニケーション活動（リスクコミュニケーション・アウトリーチ活動等を

含む）
・エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章、学術論文の発表状況
・調査実施のための組織体制の妥当性
・その他（令和６年度年次評価書を受けての取組状況）

（３）エコチル調査の今後の展開等についての検討

令和３年度に「健康と環境に関する疫学調査検討会」を立ち上げ、これまでのエコチル調査について総括を行い、小児期以降のエコチル調査の今後の展開、成果の社会還元のための方策等について議論し（全６回開催）、報告書を取りまとめ、令和４年３月 29 日に公表した。

①第１回健康と環境に関する疫学調査検討会
日　時：令和３年７月 19 日（月）15:00～17:00
場　所：会場及び Web 開催
議　事：
１）これまでのエコチル調査の総括について
２）小児期以降の健康と環境における課題について
３）小児期以降に展開する上での課題について
４）成果の効果的な社会還元のための方策について
５）その他

②第２回健康と環境に関する疫学調査検討会
日　時：令和３年９月 10 日（金）13:00～15:00
場　所：会場及び Web 開催
議　事：
１）これまでの議論の整理
２）エコチル調査の運営体制とコアセンターの取組
３）今後のスケジュール
４）その他

③第３回健康と環境に関する疫学調査検討会
日　時：令和３年 10 月 22 日（金）13:00～15:00
場　所：会場及び Web 開催
議　事：
１）これまでの議論の整理
２）エコチル調査参加者、関係学術団体からのヒアリング
３）今後のスケジュール
４）その他

④第４回健康と環境に関する疫学調査検討会

日　時：令和３年 12 月 15 日（水）13:00～15:30

場　所：会場及び Web 開催

議　事：

１）これまでの議論の整理

２）関係学術団体等からのヒアリング

３）成果の社会還元について

４）今後のスケジュール

５）その他

⑤第５回健康と環境に関する疫学調査検討会

日　時：令和４年１月 20 日（木）15:00～17:00

場　所：会場及び Web 開催

議　事：

１）報告書案について

２）その他

⑥第６回健康と環境に関する疫学調査検討会

日　時：令和４年２月 18 日（金）13:00～15:00

場　所：会場及び Web 開催

議　事：

１）報告書（案）について

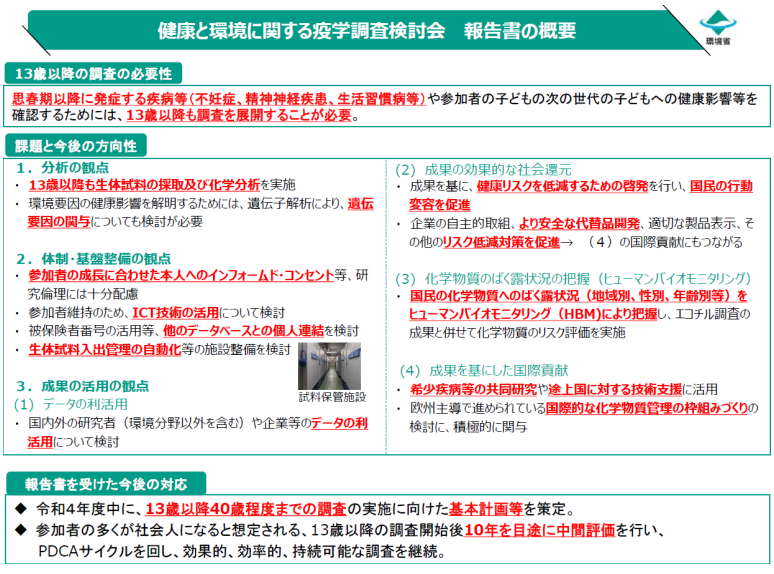
２）その他

■報告書

「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書

―エコチル調査の今後の展開について―

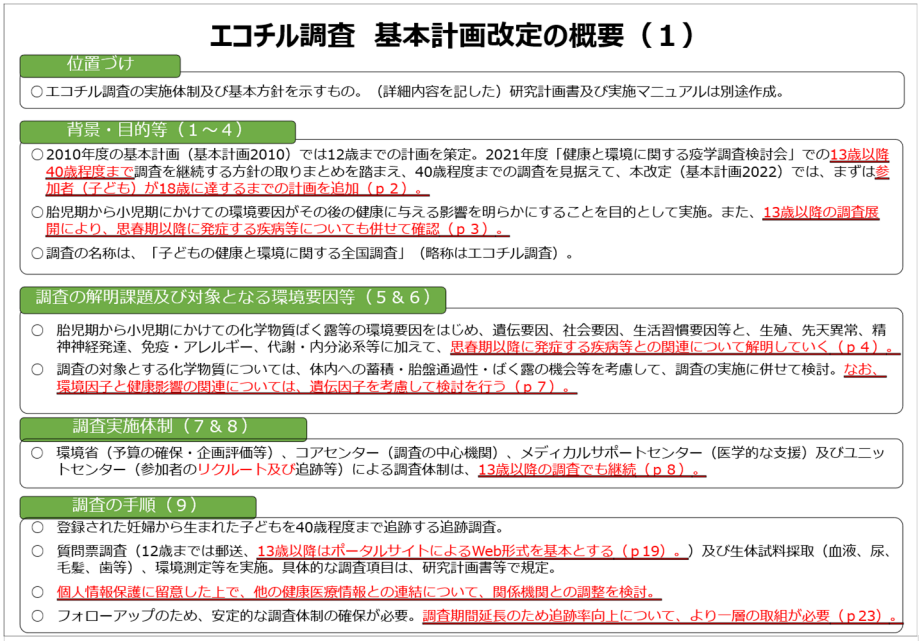
（令和４年３月 29 日、健康と環境に関する疫学調査検討会）



（４）エコチル調査基本計画の改定について

令和３年度に、これまでのエコチル調査について総括を行い、小児期以降のエコチル調査の今後の展開、成果の社会還元のための方策等について「健康と環境に関する疫学調査検討会」において取りまとめた報告書（令和４年３月 29 日公表）を受け、令和４年度の企画評価委員会における議論を踏まえて、参加者が 18 歳に達するまでの調査について令和５年３月 30 日に基本計画の改定を行った※。

※　https://www.env.go.jp/content/000125738.pdf



エコチル調査　基本計画改定の概要（１）

位置づけ

○エコチル調査の実施体制及び基本方針を示すもの。（詳細内容を記した）研究計画書及び実施マニュアルは別途作成。

背景・目的等（１～４）

○2010年度の基本計画（基本計画2010）では12歳までの計画を策定。2021年度「健康と環境に関する疫学調査検討会」での13歳以降40歳程度まで調査を継続する方針の取りまとめを踏まえ、40歳程度までの調査を見据えて、本改定（基本計画2022）では、まずは参加者（子ども）が18歳に達するまでの計画を追加（ｐ２）。

○胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に与える影響を明らかにすることを目的として実施。また、13歳以降の調査展開により、思春期以降に発症する疾病等についても併せて確認（ｐ３）。

○調査の名称は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」（略称はエコチル調査）。

調査の解明課題及び対象となる環境要因等（５＆６）

○ 胎児期から小児期にかけての化学物質ばく露等の環境要因をはじめ、遺伝要因、社会要因、生活習慣要因等と、生殖、先天異常、精神神経発達、免疫・アレルギー、代謝・内分泌系等に加えて、思春期以降に発症する疾病等との関連について解明していく（ｐ４）。

○ 調査の対象とする化学物質については、体内への蓄積・胎盤通過性・ばく露の機会等を考慮して、調査の実施に併せて検討。なお、環境因子と健康影響の関連については、遺伝因子を考慮して検討を行う（ｐ７）。

調査実施体制（７＆８）

○ 環境省（予算の確保・企画評価等）、コアセンター（調査の中心機関）、メディカルサポートセンター（医学的な支援）及びユニットセンター（参加者のリクルート及び追跡等）による調査体制は、13歳以降の調査でも継続（ｐ８）。

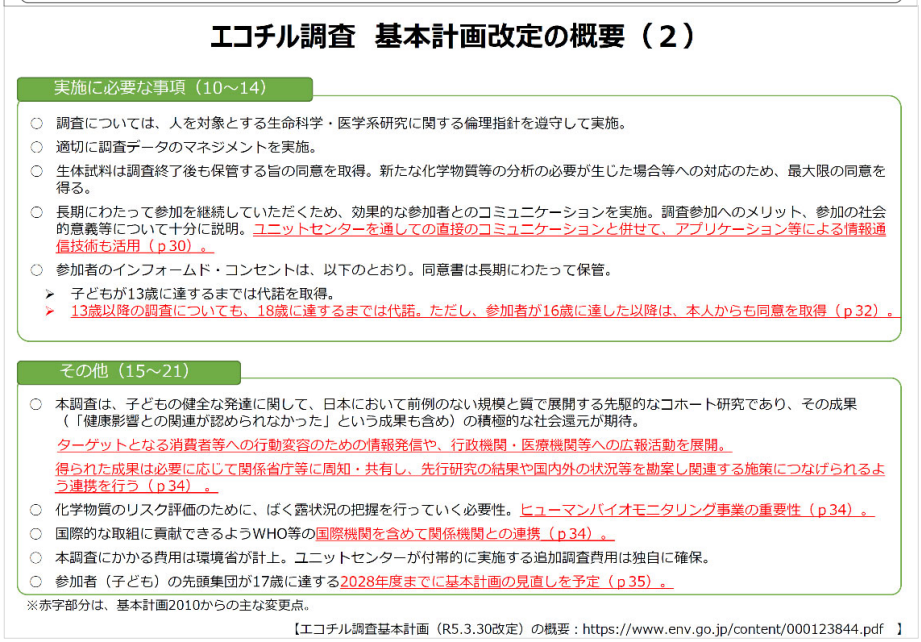
調査の手順（９）

○ 登録された妊婦から生まれた子どもを40歳程度まで追跡する追跡調査。

○ 質問票調査（12歳までは郵送、13歳以降はポータルサイトによるWeb形式を基本とする（ｐ19）。）及び生体試料採取（血液、尿、毛髪、歯等）、環境測定等を実施。具体的な調査項目は、研究計画書等で規定。

○ 個人情報保護に留意した上で、他の健康医療情報との連結について、関係機関との調整を検討。

○ フォローアップのため、安定的な調査体制の確保が必要。調査期間延長のため追跡率向上について、より一層の取組が必要（ｐ23）。



エコチル調査　基本計画改定の概要（２）

実施に必要な事項（10～14）

○ 調査については、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を遵守して実施。

○ 適切に調査データのマネジメントを実施。

○ 生体試料は調査終了後も保管する旨の同意を取得。新たな化学物質等の分析の必要が生じた場合等への対応のため、最大限の同意を得る。

○ 長期にわたって参加を継続していただくため、効果的な参加者とのコミュニケーションを実施。調査参加へのメリット、参加の社会的意義等について十分に説明。ユニットセンターを通しての直接のコミュニケーションと併せて、アプリケーション等による情報通信技術も活用（ｐ30）。

○ 参加者のインフォームド・コンセントは、以下のとおり。同意書は長期にわたって保管。

- 子どもが13歳に達するまでは代諾を取得。
- 13歳以降の調査についても、18歳に達するまでは代諾。ただし、参加者が16歳に達した以降は、本人からも同意を取得（ｐ32）。

その他（15～21）

○ 本調査は、子どもの健全な発達に関して、日本において前例のない規模と質で展開する先駆的なコホート研究であり、その成果（「健康影響との関連が認められなかった」という成果も含め）の積極的な社会還元が期待。
ターゲットとなる消費者等への行動変容のための情報発信や、行政機関・医療機関等への広報活動を展開。
得られた成果は必要に応じて関係省庁等に周知・共有し、先行研究の結果や国内外の状況等を勘案し関連する施策につなげられるよう連携を行う（ｐ34）。

○ 化学物質のリスク評価のために、ばく露状況の把握を行っていく必要性。ヒューマンバイオモニタリング事業の重要性（ｐ34）。

○ 国際的な取組に貢献できるようWHO等の国際機関を含めて関係機関との連携（ｐ34）。

○ 本調査にかかる費用は環境省が計上。ユニットセンターが付帯的に実施する追加調査費用は独自に確保。

○ 参加者（子ども）の先頭集団が17歳に達する2028年度までに基本計画の見直しを予定（ｐ35）。

※赤字部分は、基本計画2010からの主な変更点。

【エコチル調査基本計画（R5.3.30改定）の概要：https://www.env.go.jp/content/000123844.pdf 】

（５）エコチル調査実施機関への支援

エコチル調査のユニットセンターは、業務をより効果的・効率的に進めるよう、PDCA サイクルの考え方に基づき質問票の回収率の向上や参加者コミュニケーションなどに取組んでいる。調査現場における様々な課題の解決を支援するため、令和２年度より、年次評価で収集した PDCA サイクルに基づく優良な取組を好事例集として取りまとめ、ユニットセンターに配布している。

２．国際連携

（１）国際連携調査委員会の開催

諸外国で実施されている出生コホート調査との状況把握、協力・連携等を検討するため、平成 23 年度～令和２年度まで、国際連携調査委員会を開催した。

国際連携調査委員会は令和２年度で終了し、国際動向の把握等の学術的な内容に関する国際連携活動は、令和３年度に国立環境研究所エコチル調査コアセンターに移管した。

（２）国際シンポジウムの開催

①エコチル調査国際シンポジウム

平成 23 年２月、小児環境保健に関する国際連携のための取組とエコチル調査について、広く国民に周知するため、エコチル調査国際シンポジウムを開催し、約 100 名が参加した。

国際連携会議に招へいした諸外国及び国際機関の専門家が、各国の出生コホート調査状況や小児環境保健のための国際連携について発表するとともに、シンポジウムの聴衆者から質問や意見をいただくなど、パネルディスカッションを行った。

日　時　平成 23 年２月４日（金）　9:30～12:30
会　場　東京大学山上会館
プログラム
　第一部　各国の出生コホート調査状況
　　1）日本のエコチル調査
　　2）デンマークの調査
　　3）韓国の調査
　　4）米国子ども調査
　　5）パネルディスカッション
　第二部　小児環境保健のための国際連携
　　1）世界保健機関の取組
　　2）国連環境計画の取組
　　3）国際小児がんコンソーシアム（I4C）の取組
　　4）環境省の取組
　　5）パネルディスカッション

②エコチル調査国際シンポジウム in 北九州

平成 24 年２月、小児環境保健に関する国際連携のための取組とエコチル調査について、広く国民に周知するため、エコチル調査国際シンポジウムを北九州市で開催

し、約 200 名が参加した。

国際連携会議に招へいした諸外国及び国際機関の専門家が、各国の出生コホート調査状況や小児環境保健のための国際連携について発表するとともに、国際作業グループ会合の成果について報告した。また、国内の専門家がエコチル調査の進捗状況や我が国の先行研究について発表を行うとともに、今後エコチル調査に期待することなどをテーマに、産業医科大学の研究者、北九州市担当官を交えてパネルディスカッションを行った。

日　時　平成 24 年 2 月 28 日（火）　13:00～16:30
会　場　北九州国際会議場
共　催　北九州市、産業医科大学
プログラム
　第一部　次世代の大規模出生コホート調査の協調に関する WHO 作業グループ会合報告
　　1）日本の取組
　　2）米国の取組
　　3）ドイツの取組
　　4）世界保健機構（WHO）の取組
　　5）国際作業グループからの報告
　第二部　エコチル調査の取組状況と期待
　　1）エコチル調査の取組状況
　　2）日本における先行研究
　　・環境と子どもの健康に関する北海道研究：先天異常・発達・アレルギーについて
　　・東北コホート
　　3）パイロット調査の紹介
　　4）エコチル調査への期待
　　5）パネルディスカッション

③エコチル調査国際シンポジウム in 名古屋

平成 25 年 11 月、小児環境保健に関する国際連携のための取組とエコチル調査について、広く国民に周知するため、エコチル調査国際シンポジウムを名古屋市で開催し、213 名が参加した。

国際連携会議に招へいした諸外国及び国際機関の専門家が、各国の出生コホート調査状況や小児環境保健のための国際連携について発表するとともに、国際作業グループ会合の成果について報告した。また、国内の専門家がエコチル調査の進捗状況や集計結果について発表を行うとともに、今後エコチル調査に期待することなどをテーマに県医師会長、市担当者に語っていただいた。

日　時　平成 25 年 11 月 15 日（金） 13:30～16:00
会　場　ミッドランドホール
共　催　名古屋市立大学
後　援　名古屋市、一宮市、愛知県医師会、愛知県看護協会
プログラム
　第一部　子どもの健康と環境に関する各国の大規模疫学調査への取組と国際連携
　　1）国際連携の背景
　　2）米国の取組
　　3）ドイツの取組
　　4）中国の取組
　　5）フランスの取組
　　6）国際作業グループからの報告
　第二部　エコチル調査の今後の展望
　　1）エコチル調査の今後のロードマップ
　　2）これまでに明らかになったこと、これから明らかにされること
　　3）エコチル調査への期待

④第４回エコチル調査国際シンポジウム in 国連大学

平成 27 年 12 月、小児環境保健に関する国際連携のための取組とエコチル調査について、広く国民に周知するため、エコチル調査国際シンポジウムを東京都渋谷区で開催し、248 名が参加した。

国際連携会議に招へいした諸外国及び国際機関の専門家が、各国の出生コホート調査状況や小児環境保健のための国際連携について発表した。

日　時　平成 27 年 12 月 15 日（火） 13:30～15:50
会　場　国連大学 ウ・タント国際会議場
主　催　環境省、国立環境研究所
共　催　千葉大学
後　援　国立成育医療研究センター
プログラム
　第一部
　（１）エコチル調査の現状と今後の展望
　　1） 最近の地球環境の変化と子どもの健康について
　　2） エコチル調査からこれまでに得られた成果
　（２）海外の大規模出生コホート調査の進捗状況
　　1） ノルウェー母子コホート調査の概要

2)　デンマーク全国出生コホートの概要
3)　アジアにおける出生コホート研究の現状
第二部　パネルディスカッション
出生コホート調査の推進に向けて　ー情報発信の視点からー

⑤第５回エコチル調査国際シンポジウム

平成 29 年８月、小児環境保健分野の国内外の疫学研究に関連する専門家等と科学的知見の共有を図ることを目的とし、さいたま市で開催された第 21 回国際疫学会総会の中で、エコチル調査国際シンポジウムを開催し、約 270 名が参加した。

エコチル調査の進捗状況を報告するとともに海外から専門家を招き、これまでに世界の小児環境疫学研究によって明らかになった「環境中の化学物質」、「栄養」及び「エピジェネティクス」に関する最新の研究結果の紹介を行った。

日　時　平成 29 年 8 月 20 日（日）　13:00～15:30
会　場　ソニックシティ　小ホール
主　催　国際疫学会、環境省
後　援　国立環境研究所、国立成育医療研究センター
プログラム
講演
- Children’s health and the environment: the American experience.
- Impact of maternal nutrition on children's health and development.
- Large data challenges and opportunities in detection of genome - exposome interaction in children's health and development.
- Japan Environmental and Children's study (JECS)

パネルディスカッション

※第 21 回国際疫学会総会（IEA-WCE2017）のシンポジウムとして開催

⑥エコチル調査国際シンポジウム（※第 77 回日本公衆衛生学会総会時に開催）

平成 30 年 10 月、福島県郡山市にて開催された第 77 回日本公衆衛生学会総会開催時に、エコチル調査に携わる研究者を含む学会参加者を対象としたシンポジウムを開催し、約 230 名が参加した。

「子どもの環境保健研究の公衆衛生学的意義：エコチル調査等の出生コホート研究の地域公衆衛生活動への貢献」をテーマとし、公衆衛生課題としての小児環境保健の立ち位置と、研究（特にエコチル調査）の現状（エコチル調査の背景説明）とシンポジウムの目的（研究的取組の位置づけと重要性の確認）を導入部で説明後、海外及び国内の専門家が講演を行った。

日　時　平成 30 年 10 月 26 日（金） 12:45～14:35
会　場　ビッグパレットふくしまコンベンションホール B
共　催　環境省、国立環境研究所
プログラム
講演
・ 内分泌かく乱化学物質：高額かつ予防可能な公衆衛生上の脅威
・ 大気汚染ばく露の小児健康影響
・ 我々の子どもたちの健康的かつ持続可能な環境：研究から実地への反映
・ 東日本大震災の復興とともに歩む福島県におけるエコチル調査
パネルディスカッション

※第 77 回日本公衆衛生学会総会のシンポジウムとして開催

⑦エコチル調査国際シンポジウム(※第56回日本小児アレルギー学会学術大会時に開催)

エコチル調査の成果について国内外の専門家等と科学的知見の共有を図るとともに、疫学や出生コホート研究の重要性を国内小児医に啓蒙することを目的とし、第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会（令和元年 11 月２日（土）～３日（日）、千葉市）の中で、エコチル調査国際シンポジウムを開催した。

本シンポジウムでは、「アレルギー発症に関わる環境・遺伝因子：エコチル調査等の世界的コホート研究から」をテーマとし、海外及び国内の専門家による講演と総合討論を行った。

日　時　令和元年 11 月３日（日）14：50～17：00
会　場　幕張メッセ国際会議場　2F　国際会議室
主　催　日本小児アレルギー学会、環境省、国立環境研究所
プログラム
講演
・ 千葉大予防医学センターでの出生コホートについて
・ エコチル調査におけるアレルギー発症に関連する因子
・ 欧州出生コホートでの解析
・ 韓国出生コホートにおける発症関連因子
・ EAT study 離乳食介入による発症予防
総合討論

※第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会のシンポジウムとして開催

（３）環境と子どもの健康に関する国際作業グループ（Environment and Child Health International Group（ECHIG））

①国際作業グループ会合の開催

昨年度までに大規模出生コホート調査に関する国際作業グループの会合が第一回～第十七回まで開催された（令和２年９月に第十八回会合を開催する予定であったが、以降、新型コロナウイルス感染症に係る対応のため中止）。

※ECHIG は、当初、大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ（International Working Group for Coordination of the Next Generation of Large-Birth Cohorts）の名称で活動を開始し、平成 25 年 2 月に環境と子どもの健康に関する出生コホート国際作業グループ（Environment and Child Health Inter-national Birth Cohort Group）に改名、さらに令和元年 11 月に現在の名称に改名した。

・第一回会合

日　時：平成 23 年 9 月 17 日（土）9：00～18：00
会　場：バルセロナ（スペイン）
主　催：世界保健機関（WHO）
後　援：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省
参加者：上記の他、各国の大規模コホート調査担当官・研究者約 50 名
プログラム：

１）日本、ドイツ、米国における出生コホート調査の内容・進捗状況報告
２）出生コホートにおける調査手法の標準化、データの相互利用に関する意見交換
３）国際作業グループの活動方針

第一回会合の結果

○ 今回は第一回会合であるため、各国の出生コホート調査の進捗状況に関する情報交換や、国際連携に関する意見交換を行った。
○ プレゼンテーションがあった日米独の他にも、イギリスや中国などで、大規模な出生コホート調査が計画されていることが紹介され、将来的に各国調査のデータを結合して大規模な解析及びそれらの比較を行うことの重要性が確認された。
○ そのためにも、早い段階から健康状況の把握の方法や化学物質の測定手法等の共通化・標準化について議論しておくことが必要であるとされた。調査の項目と内容について、公衆衛生学的な観点からは多くの期待や意見があるものの、まずは、比較が可能なもの（出生体重など）、病理所見や形態学的所見あるいはバイオマーカーなどから専門医による診断ができるもの（先天異常の一部など）、大規模な疫学調査のために国際的に標準化された質問票が存在するもの（アレルギー疾患など）、標準的な手法が未確立なため、データ比較手法をさらに検討すべきもの（精神発達評価の一部など）などに分類・列挙した上で、データ結合等の意義や実行可能性等について引き続き議論していくことが合意された。
○ なお、罹患率は低いが診断・判断の基準が明確な疾患については、こうした各国の協調の下でのデータの結合によって、新たな知見が得られるのではないかとの

期待が寄せられた。

・第二回会合
日　時：平成 23 年 10 月 25 日
会　場：ボルチモア（米国）
主　催：世界保健機関（WHO）
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省、米国 EPA

・第三回会合
日　時：平成 23 年 12 月５日～６日
会　場：ボン（ドイツ）
主　催：世界保健機関（WHO）
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省、米国 EPA

・第四回会合
日　時：平成 24 年２月 27 日（月）～28 日（火）
会　場：北九州国際会議場
主　催：世界保健機関（WHO）
後　援：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省
参加者：上記の他、フランス、中国、エコチル調査関係者約 50 名
プログラム：
１）第一～三回会合（バルセロナ、ボルチモア、ボン）のフォローアップ
２）出生コホートにおける調査手法の標準化、データの相互利用に関する意見交換
３）国際作業グループの今後の活動方針

第四回会合の結果
○ 作業グループメンバーにより、「原則の声明」への署名が行われた。この声明は、出生コホート間の協調と調査手法の共通化・標準化を目指す作業グループの活動の趣旨を確認するとともに、未公表のデータ・情報を共有する場合のルールを定めたものである。
○ 作業グループでは、各コホート調査で使用されている質問票の比較表の素案が作成された。今後、この比較表を充実させるとともに、各国の共通点、相違点について分析を行うこととした。
○ 各コホート調査における健康状況の把握の方法や化学物質の測定手法等の共通化・標準化を進めるため、早産や精神神経発達などの評価手法について、試行的に比較分析を進めるとともに、生体試料の取扱いに関する標準作業手続書などの技術的文書の情報交換を進めることとなった。

・第五回会合
日　時：平成 24 年６月 26 日～27 日

会　場：上海（中国）
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省、米国 EPA

・第六回会合
日　時：平成 24 年 10 月 31 日～11 月１日
会　場：シアトル（アメリカ）
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省、上海交通大学医学部

・第七回会合
日　時：平成 25 年５月８日～９日
会　場：ワシントン（アメリカ）
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、上海交通大学医学部、フランス Elfe 事務局

・第八回会合
日　時：平成 25 年８月 18 日～19 日
会　場：バーゼル（スイス）
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省、上海交通大学医学部、フランス Elfe 事務局

・第九回会合
日　時：平成 25 年 11 月 14 日～15 日
会　場：愛知県産業労働センターウインクあいち
参加者：環境省、全米子ども調査事務局、ドイツ環境・自然保護・核安全省、上海交通大学医学部、フランス Elfe 事務局

第九回会合の結果
○ 平成 24 年に作成、署名された原則の声明は、グループの新しい名称（ECHIBCG：Environment and Child Health International Birth Cohort Group）を反映するため、声明の再検討及び修正が行われた。その後、ECHIBCG のメンバーは、原則の声明に署名し、方針を再び承認した。
○ ECHIBCG の活動について論文投稿することが合意され、論文投稿の具体的な内容について議論された。
○ 連携すべき化学物質について、代謝物、検出限界、データ分析に関する情報を追記することとなった。
○ アウトカムについては、十分に議論をする必要があると判断され、引き続き検討することとなった。

・第十回会合
日　時：平成 26 年 10 月 15 日～16 日

会　場：オハイオ州（アメリカ）
参加者：環境省、アメリカ環境保護局、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、フランス国立保健医学研究機構

第十回会合の結果

○ Dr. Etzel は、本会合の成果を以下のように説明した。出生コホートグループの国際連携は、平成 23 年８月にスペインのパルセロナで開催された International Society for Environmental Epidemiology の年次会合に於いて、WHO の援助の下に開始された。
○ 開始当初の会合では、次世代の出生コホートでハーモナイズを行う、比較的少数の核となるアウトカム、バイオマーカー、環境関連の測定項目の特定を計画の中心にして議論が行われ、その後の会合では、より深い議論となった。
○ 平成 24 年北九州の会合において、当時の国際作業グループメンバーにより「原則の声明（A Statement of Principles）」が探択され、秘密保持協定が取り交わされた。
○ 平成 24 年には、この国際作業グループは、ECHIBCG （The Environment and Child Health International Birth Cohort Group）と改名され、名古屋で開催されたエコチル調査関係シンポジウムの前日に、メンバーは「原則の声明」と秘務保持協定に署名をした。

・第十一回会合

日　時：平成 27 年８月 12 日～13 日
会　場：リヨン（フランス）
参加者：環境省、アメリカ環境保護局、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、上海交通大学、IARC（事務局）

第十一回会合の結果

○ 国際作業グループ（ECHIBCG）の事務局を、IARC が担当することになった。研究仮説に基づいたハーモナイゼーションを行うことが合意され、その研究計画の策定に向けた議論を行った。

・第十二回会合

日　時：平成 27 年 12 月 15 日～16 日
会　場：国連大学（東京都渋谷区）
参加者：環境省、アメリカ環境保護局、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、上海交通大学、IARC（事務局）

第十二回会合の結果

○　研究仮説に関する研究計画の策定に向けた議論を行った。

・第十三回会合

日　時：平成 28 年４月 20 日

会　場：ベルリン（ドイツ）

参加者：環境省、アメリカ環境保護局、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、上海交通大学、IARC（事務局）

第十三回会合の結果

○ 東京での会合に続き、研究仮説に基づいたハーモナイゼーションを行うことを確認。測定項目の選定では各国意見が分かれ議論を重ねたが、最終的にトリクロサンとビスフェノール類についてばく露と妊娠糖尿病等の関係をみることで合意した。今後は研究計画提案書を策定後、ワーキングのメンバーで試料分析法を交換することになった。

・第十四回会合

日　時：平成 28 年 11 月７日（月）

会　場：パリ（フランス）

参加者：環境省、国際連携調査委員会委員、アメリカ環境保護局、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、デンマーク国立血清学研究所、上海交通大学部、ソウル大学校医科大学、IARC（事務局）

第十四回会合の結果

○ 国際作業グループ（ECHIBCG）への参加に関心を表明した韓国コホートグループ（KoCHENS）を第 14 回会合に招待した。国際的なハーモナイゼーションに向けた今後の優先的取組課題として、測定方法のハーモナイゼーションを進め、論文化することが合意された。ばく露測定を行う化学物質は鉛、及び PFAS（PFOS/PFOA）となった。

・第十五回会合

日　時：平成 29 年 11 月 22 日（水）～23 日（木）

会　場：パリ（フランス）

参加者：環境省、国際連携調査委員会委員、アメリカ環境保護局、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、ドイツ連邦環境庁、ノルウェー国立公衆衛生研究所、上海交通大学部、IARC（事務局）

第十五回会合の結果

○ 各国は、事務局が作成したテンプレートに従い、鉛データに関するプレゼンテーションを行った。鉛データ論文作成に向け、鉛データとの比較を行うため、各国コホートにおける鉛データの比較にフォーカスすることが合意された。また、

PFAS 論文のデータとして、リヨンテーブルのデータを使用することで合意した。

・第十六回会合
日　時：平成 30 年 11 月 27 日（火）～28 日（水）
会　場：リヨン（フランス）
参加者：国際連携調査委員会委員、アメリカ環境保護局、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、ドイツ連邦環境庁、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、上海交通大学部、IARC（事務局）

第十六回会合の結果
○ 鉛データ論文について修正・追加が行われ、完成版に近い状態になった。鉛論文の次のステップとして PFAS(PFOS & PFOA)ばく露比較研究を進めることも視野に入れ、リヨンテーブルのデータを更新し、表が作成された。エコチル調査国際連携調査委員より今後のコラボレーションのフレームワークが提案され、検討・議論する方向になった。

・第十七回会合
日　時：令和元年 11 月 11 日（月）～12 日（火）
会　場：ベルリン（ドイツ）
参加者：国際連携調査委員会座長、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、ドイツ連邦環境庁、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、IARC（事務局）

第十七回会合の結果
○ 日本から、出生コホート及びバイオモニタリングの行政施策としての活用の方策を国際機関で検討する必要性についてプレゼンテーションを実施した。
○ 議論の結果、各国の取組を連携継続していくために覚書を作成することとなった。覚書には、各国の調査としての連携だけでなく、取組のゴールとして、国際機関と連携をすることが盛り込まれた。

・第十八回会合
日　時：令和５年 11 月 14 日（火）～15 日（水）
会　場：リヨン（フランス）
参加者：環境省、国立環境研究所、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、ドイツ連邦環境庁、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、IARC（事務局）

第十八回会合の結果
○ ECHIG に参加している各コホート調査から、調査概要や最新状況等について発表

が行われた。
○ 今後 ECHIG が進める共同研究において取り上げる仮説を検討するため、ECHIG に参加している各コホート調査のリクルート手法、調査参加者、追跡期間、データ収集、健康評価項目等の類似点や相違点について議論した。

・第十九回会合
日　時：令和６年 11 月 21 日（木）～22 日（金）
会　場：リヨン（フランス）
参加者：環境省、国立環境研究所、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境自然保護原子力安全省、ドイツ連邦環境庁、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、中国上海交通大学医学院
筑波大学（招へい講演者）、IARC（事務局）

第十九回会合の結果
○ ECHIG に参加している各コホート調査から、調査概要や最新状況等について発表が行われた。
○ PFAS 解析論文で扱う変数及び変数の選択項目等について議論が行われた。
○ 今後 ECHIG が進める共同研究の解析計画等について議論し、共同研究に関連する各コホート調査の経験を共有した。
○ 筑波大学から専門家を招へいし、データ共有のプライバシー保護と機械学習をテーマとする学術講演を行った。

・第二十回会合
日　時：令和７年９月 15 日（月）～16 日（火）
会　場：リヨン（フランス）
参加者：環境省、国立環境研究所、フランス国立保健医学研究機構、ドイツ連邦環境庁、デンマーク国立血清学研究所、ノルウェー国立公衆衛生研究所、韓国国立環境研究院、IARC（事務局）

第二十回会合の結果
○ ECHIG に参加している各コホート調査から、調査概要や最新状況等について発表が行われた。
○ IARC 創立 60 周年記念行事として、国立環境研究所の中山先生は環境汚染物質による健康影響と、エコチル調査の研究成果及びエクスポソーム研究の重要性について招へい講演を行った。
○ PFAS 解析論文について、各コホート調査のデータの調和化や解析状況が共有され、要約統計量の算出方法、今後の解析計画及び論文の方向性等について議論が行われた。
○ ECHIG メンバーについて、中国の上海出生コホートが離脱し、新たに韓国子ども環境健康研究（Ko-CHENS）から ECHIG への参加に関する打診があったことが報告

された。また、IARC（フランス・リヨン）での隔年ワークショップの開催及びECHIG対面会議との統合が提案された。

②論文の発表

ECHIGは、活動の成果として、これまでに２本の論文を発表している。

タイトル：Harmonizing Biomarker Measurements in Longitudinal Studies of Children’s Health and the Environment
発 表 年：平成26年
掲 載 誌：Biomonitoring 2014; 1: 50-62
内　　容：環境と子どもの健康に関する出生コホート国際作業グループの概要と設立経緯、作業の進捗状況を説明し、この国際的な共同作業の優位性について考察。

タイトル：Benefits of cooperation among large-scale cohort studies and human biomonitoring projects in environmental health research: An exercise in blood lead analysis of the Environment and Child Health International Birth Cohort Group
発 表 年：令和元年
掲 載 誌：International Journal of Hygiene and Environmental Health. 2019 Sep;222(8):1059-1067
内　　容：各国の研究グループの血中鉛濃度測定を調和させる（ハーモナイゼーション）ため、各研究における血中鉛濃度（BLL）を評価。

（４）国際小児がんコホートコンソーシアム（International Childhood Cancer Cohort Consortium（I4C））

エコチル調査基本計画においては、「小児がんについては症例数の確保が難しいため、本調査としては仮説を設定しないが、国際的な枠組み（I4C）への参加を検討する」としており、I4Cへの参加について検討するため、平成23年２月のエコチル調査国際連携会議、同年9月19日～20日のI4Cワークショップ（バルセロナ）等の場を活用し、参加条件等の情報を収集してきたところである。

平成23年９月22日のエコチル調査運営委員会において、エコチル調査としてI4Cに参加申請を行うことが決定した。同年９月29日付けで、佐藤コアセンター長（当時）及び戸田環境省環境リスク評価室長（当時）の連名で、参加申請のレターをI4C運営委員会（Steering Committee）のTerry Dwyer委員長に送付し、同年10月12日付けで、運営委員会がエコチル調査のI4C 参加を承認したとの連絡があった。以降、エコチル調査からは、I4C運営委員会のメンバーとして、コアセンターが２名登録し、I4Cワークショップ開催時に専門家を派遣している。

①The 5th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop

日　時：平成 24 年 11 月 12 日～13 日
会　場：リヨン（フランス）
派遣者：コアセンター１名、メディカルサポートセンター３名

②The 6th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop
日　時：平成 25 年 10 月５日～６日
会　場：リヨン（フランス）
派遣者：コアセンター２名、メディカルサポートセンター１名

③The 7th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop
日　時：平成 26 年 11 月 17 日～18 日
会　場：リヨン（フランス）
派遣者：コアセンター１名、メディカルサポートセンター３名

④The 8th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop
日　時：平成 27 年 11 月 16 日～17 日
会　場：オックスフォード（イギリス）
派遣者：コアセンター１名、メディカルサポートセンター３名

⑤The 9th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop
日　時：平成 28 年 11 月 11 日（金）～11 月 12 日（土）
会　場：オックスフォード（イギリス）
派遣者：コアセンター２名、メディカルサポートセンター２名

⑥The 10th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop
日　時：平成 29 年 11 月２日（木）～11 月３日（金）
会　場：ロックビル（アメリカ）
派遣者：メディカルサポートセンター１名

⑦The 11th International Childhood Cancer Cohort Consortium Workshop
日　時：平成 30 年 11 月 12 日（月）～11 月 14 日（水）
会　場：東京（日本）
派遣者：メディカルサポートセンター２名

⑧The 2019 Joint Meeting of the Childhood Leukemia International Consortium (CLIC) and the International Childhood Cancer Consortium (I4C)
日　時：令和元年 11 月 18 日（月）～11 月 19 日（火）
会　場：リヨン（フランス）
派遣者：コアセンター１名、メディカルサポートセンター２名

⑨The International Childhood Cancer Cohort Consortium Annual Meeting 2020

日　時：令和３年２月 22 日（月）

会　場：Web 開催

派遣者：メディカルサポートセンター１名

（５）国際学会等への専門家派遣

エコチル調査の進捗状況について世界への情報発信、及び小児疫学に係る最新の知見の収集を目的として、平成 25 年度～令和２年度において、以下の国際学会に専門家を派遣した。

※令和３年度からは、国際学会への専門家派遣はコアセンターに移管。

①ISEE-ISES-ISIAQ (The International Society for Environmental Epidemiology (ISEE), the International Society of Exposure Science (ISES), and the International Society of Indoor Air Quality and Climate (ISIAQ))

・平成 25 年度

日　時：平成 25 年 8 月 19 日（月）～23 日（金）

会　場：バーゼル（スイス）

派遣者：コアセンター３名、国際連携調査委員会座長

②The International Society for Environmental Epidemiology (ISEE)

・平成 26 年度

日　時：平成 26 年 8 月 24 日（日）～28 日（木）

会　場：シアトル（アメリカ）

派遣者：国際連携調査委員１名

・平成 28 年度

日　時：平成 28 年９月１日（木）～９月４日（日）

会　場：ローマ（イタリア）

派遣者：メディカルサポートセンター１名

・平成 29 年度

日　時：平成 29 年９月 24 日（日）～９月 28 日（木）

会　場：シドニー（オーストラリア）

派遣者：山梨ユニットセンター１名、国際連携調査委員１名

・令和元年度

日　時：令和元年８月 25 日（日）～８月 28 日（水）

会　場：ユトレヒト（オランダ）

派遣者：国際連携調査委員１名

・令和２年度

日　時：令和２年８月24日（月）～８月27日（木）
会　場：Web開催
派遣者：メディカルサポートセンター１名

③International Society of Exposure Science（ISES）

・平成26年度
日　時：平成26年10月12日（日）～10月16日（木）
会　場：シンシナティ（アメリカ）
派遣者：環境省環境リスク評価室室長、コアセンター１名、
　　メディカルサポートセンター2名、国際連携調査委員会座長

・平成27年度
日　時：平成27年10月18日（日）～10月22日（木）
会　場：ネバダ（アメリカ）
派遣者：コアセンター２名、メディカルサポートセンター１名、
　　国際連携調査委員会座長

・平成28年度
日　時：平成28年10月9日（日）～10月13日（木）
会　場：ユトレヒト（オランダ）
派遣者：メディカルサポートセンター１名

・平成29年度
日　時：平成29年10月15日（日）～10月19日（木）
会　場：ダーラム（アメリカ）
派遣者：メディカルサポートセンター１名

・令和２年度
日　時：令和２年９月21日（月）～９月22日（火）
会　場：Web開催
派遣者：国際連携調査委員１名

④ISEE-ISES（The International Society for Environmental Epidemiology（ISEE）, the International Society of Exposure Science（ISES）

・平成30年度
日　時：平成30年８月26日（日）～８月30日（木）
会　場：オタワ（カナダ）
派遣者：国際連携調査委員１名

⑤ISEE/ES AC（The International Society for Environmental Epidemiology（ISEE）/ Exposure Science（ES）Asia Chapter（AC））

・平成 30 年度
日　時：平成 30 年６月 21 日（木）～６月 25 日（月）
会　場：台北（中国）
派遣者：京都ユニットセンター１名

⑥ISEE/AC (The International Society for Environmental Epidemiology (ISEE)/ Asia Chapter (AC))

・令和元年度
日　時：令和元年 10 月 17 日（木）～10 月 19 日（土）
会　場：大邱市（韓国）
派遣者：北海道ユニットセンター１名

⑦ISES-ISIAQ (The International Societies of Exposure Science (ISES) and Indoor Air Quality and Climate (ISIAQ))

・令和元年度
日　時：令和元年８月 18 日（日）～８月 22 日（木）
会　場：カナウス（リトアニア）
派遣者：国際連携調査委員１名

⑧Prenatal Programming and Toxicity (PPTOX)

・平成 26 年度
日　時：平成 26 年 10 月 26 日（日）～10 月 29 日（水）
会　場：ボストン（アメリカ）
派遣者：コアセンター２名

・平成 30 年度
日　時：平成 30 年８月 26 日（日）～８月 30 日（木）
会　場：フェロー諸島（デンマーク）
派遣者：国際連携調査委員会座長

⑨Society of Toxicology(SOT)

・平成 26 年度
日　時：平成 27 年３月 22 日（日）～３月 26 日（木）
会　場：サンディエゴ（アメリカ）
派遣者：国際連携調査委員２名

・平成 28 年度
日　時：平成 29 年３月 12 日（日）～３月 16 日（木）
会　場：ボルチモア（アメリカ）

派遣者：国際連携調査委員１名

・平成 29 年度
日　時：平成 30 年３月 11 日（日）～３月 15 日（木）
会　場：サンアントニオ（アメリカ）
派遣者：国際連携調査委員１名

・平成 30 年度
日　時：平成 31 年３月 10 日（日）～３月 14 日（木）
会　場：ボルチモア（アメリカ）
派遣者：国際連携調査委員１名

・令和元年度
日　時：令和２年３月 15 日（日）～３月 19 日（木）
会　場：アナハイム（アメリカ）
派遣者：国際連携調査委員会座長
※派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症に係る対応のため中止

・令和２年度
日　時：令和３年３月 12 日（金）～３月 26 日（金）
会　場：Web 開催
派遣者：千葉ユニットセンター１名

⑩チュラポーン王女国際科学会議

・平成 28 年度
日　時：平成 28 年 11 月 13 日（日）～11 月 17 日（木）
会　場：バンコク（タイ）
派遣者：国際連携調査委員１名

⑪Developmental origins of health and disease (DOHaD)

・平成 29 年度
日　時：平成 29 年 10 月 15 日（日）～10 月 18 日（水）
会　場：ロッテルダム（オランダ）
派遣者：国際連携調査委員座長、メディカルサポートセンター１名

⑫INCHES (International Conference on Children’s Health and the Environment)

・平成 30 年度
日　時：平成 30 年６月 27 日（水）～６月 29 日（金）
会　場：ソウル（韓国）
派遣者：北海道ユニットセンター１名

（６）国際学会等への若手研究者派遣

研究者の育成、エコチル調査の国内外への情報発信並びに国際的な研究動向の把握を目的として、平成 28 年度～令和２年度にエコチル調査に携わる若手研究者（准教授相当以下）を、下記学会に派遣した。

※令和３年度からは、国際学会等への若手研究者派遣はコアセンターに移管。

①平成 28 年度

学　会：The 28th Annual Conference International Society for Environmental Epidemiology (ISEE)
日　時：平成 28 年９月１日（木）～４日（日）
会　場：ローマ（イタリア）
派遣者：京都ユニットセンター１名

②平成 29 年度

学　会：The 57th Annual Meeting of Society of Toxicology (SOT)
日　時：平成 30 年３月 11 日（日）～15 日（木）
会　場：サンアントニオ（アメリカ）
派遣者：愛知ユニットセンター１名

③平成 30 年度

学　会：International Society for Environmental Epidemiology Asia Chapter
日　時：平成 30 年 6 月 21 日（木）～25 日（月）
会　場：台北（台湾）
派遣者：京都ユニットセンター１名

学　会：International Network for Children’s Health of Environmental and Safety Hazards (INCHES) 2018
日　時：平成 30 年６月 27 日（水）～29 日（金）
会　場：ソウル（韓国）
派遣者：北海道ユニットセンター１名

④令和元年度

学　会：The International Societies of Exposure Science (ISES) and Indoor Air Quality and Climate (ISIAQ) 2019 Joint Meeting
日　時：令和元年８月 18 日（日）～22 日（木）
会　場：カナウス（リトアニア）
派遣者：愛知ユニットセンター１名

学　会：The 31st annual conference of the International Society for Environmental Epidemiology (ISEE)

日　時：令和元年８月25日（日）～28日（水）
会　場：ユトレヒト（オランダ）
派遣者：北海道ユニットセンター１名

⑤令和２年度
学　会：The 32nd Annual Conference of the International Society for Environmental Epidemiology（ISEE）
日　時：令和２年８月24日（月）～８月27日（木）
会　場：Web開催
派遣者：北海道ユニットセンター１名

学　会：The 60th Annual Meeting of Society of Toxicology(SOT)
日　時：令和３年３月12日（金）～３月26日（金）
会　場：Web開催
派遣者：千葉ユニットセンター1名

（７）小児環境保健分野の研究者育成に対する取組

小児環境保健分野において、若手研究者が不足していることが喫緊の課題となっている。また、エコチル調査は長期間のコホート調査であり、将来的にも研究の質を担保していく必要がある。

そのため、平成28年度～令和２年度においてエコチル調査中心仮説と関連が深い国際学会等で若手研究者の育成を目的としたシンポジウムやワークショップの開催及び支援を実施した。

また、国立環境研究所エコチル調査コアセンターが主催する研究者向けワークショップの機会を利用して、環境省から国際学会に派遣した若手研究者の発表機会を設け、環境保健に関する最新の知見を共有した（⑥⑦）。

①Prenatal Programming and Toxicity V（PPTOX V）
日　時：平成28年11月13日（日）～11月16日（水）
会　場：北九州市

②第27回日本疫学会学術総会
日　時：平成29年１月25日（水）～１月27日（金）
会　場：山梨市

③エコチル調査国際ワークショップ
日　時：平成29年８月22日（火）
会　場：さいたま市
※第21回国際疫学会総会（IEA-WCE2017）の会期中に開催

④エコチル調査国際シンポジウム意見交換会

日　時：平成 30 年 10 月 26 日（金）

会　場：郡山市

※第 77 回日本公衆衛生学会総会の会期中に開催

⑤エコチル調査国際ワークショップ

日　時：令和元年 11 月４日（月）

会　場：東京都港区

⑥中心仮説解析計画検討ワークショップ（第 12 回会合）

日　時：令和２年９月 24 日（木）

会　場：Web 開催

⑦中心仮説解析計画検討ワークショップ（第 13 回会合）

日　時：令和３年６月 23 日（水）

会　場：Web 開催

３．広報活動

（１）イベントの開催

最新の研究結果や今後の展望等の紹介を通じて、国民のエコチル調査への理解を促進すること、参加者の継続意思の向上につなげることを目的として、シンポジウム等を開催している。

①キックオフイベント

メディアに取り上げられる機会づくりとして、協力医療機関へ協力依頼状の授与と、調査の趣旨に賛同するエコチル調査サポーターの募集を開始するキックオフイベントを開催した。

日　時：平成 22 年 11 月 15 日（月）14：00～14：30
場　所：環境省環境副大臣室
参加者：環境副大臣、コアセンター長、メディカルサポートセンター副センター長、
　　ユニットセンター代表、協力医療機関代表、エコチル調査サポーター代表
プログラム：
　１）副大臣あいさつ、協力医療機関代表者あいさつ、協力依頼状授与
　２）エコチル調査サポーターからの応援メッセージ
　３）エコチル調査サポーター登録証授与

②エコチル調査１周年記念シンポジウム

エコチル調査のリクルート開始後 1 年を記念し、本調査の重要性について広く国民に周知するとともに、子どもの健康と環境について理解を深めることを目的としてシンポジウムを開催した。一般公募の聴講者約 130 名が参加した。

国内の専門家が子どものアレルギーや精神発達について講演し、聴衆者からあらかじめ収集した質問に対して回答を行った。また、エコチル調査関係者が、調査の進捗状況や出生コホート調査の意義等について説明を行った。

日　時：平成 24 年１月 22 日（日）13:30～16:00
場　所：時事通信ホール（東京都中央区銀座）
プログラム：
　１）子どものアレルギーについて
　２）子どもの発達について
　３）エコチル調査について

③エコチル調査２周年記念シンポジウム

「イベントの開催による広報活動は、単発の実施にとどめるのではなく、ブースター効果をねらって定期的に行うことが重要である。」と戦略広報委員会において指摘されており、これを踏まえ、平成 24 年度は、エコチル調査のリクルート開始後２年を記念し、平成 25 年１月 23 日（水）にエコチル調査２周年記念シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者約 170 名が参加した。

国内の専門家が子どもの発達について講演し、エコチル調査関係者が、調査の進捗

状況やデータを集計した結果について説明を行った。また、調査参加者や調査担当者にインタビューし、調査現場における生の声を届けた。こうしたシンポジウムの様子は、ライブ配信を行った。

日　時：平成 25 年１月 23 日（水）14:00～16:10

場　所：時事通信ホール　（東京都中央区銀座）

プログラム：

１）子どもの発達を支える親子のコミュニケーション

２）エコチル調査を通じて見えてきたこと

３）エコチル調査からのメッセージ

④エコチル調査３周年記念シンポジウム

平成 25 年度は、エコチル調査のリクルート開始後３年を記念し、平成 26 年１月 31 日（金）にエコチル調査３周年記念シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者約 160 名が参加した。

エコチル調査関係者が、子どもの健康と環境をテーマに講演を行い、調査参加者の質問に答える形式でトークショーを行った。また、調査の進捗状況やデータを集計した結果について説明を行った。

日　時：平成 26 年１月 31 日（金）14:00～16:00

場　所：丸の内 KITTE JP タワーホール＆カンファレンス（東京都千代田区丸の内）

プログラム：

１）子どもの健康と環境

２）エコチル調査集計データの紹介

３）トーク①「離乳食について」

４）トーク②「妊娠中の生活習慣と発育について」

５）エコチル調査からのメッセージ　～未来の子どもたちへ～

また、エコチル調査３周年記念シンポジウムに合わせて、母親層向けのイベントを同時開催した。エコチル調査についてパネル展示を行い、ママタレントのトークショーや親子で楽しめる体験ステージを実施するとともに、子育て相談コーナー、キャラクターとの撮影コーナーなどを設置した。

⑤第４回エコチル調査シンポジウム

平成 26 年度は、エコチル調査のリクルート開始後４年を記念し、平成 26 年１月 25 日（日）に第４回エコチル調査シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者約 210 名が参加した。

エコチル調査関係者が、子どもの健康と環境をテーマに講演を行い、調査参加者の質問に答える形式でトークショーを行った。また、調査の進捗状況やデータを集計した結果について説明を行った。

日　時：平成 27 年１月 25 日（日）14:00～16:10

場　所：日本科学未来館（東京都江東区青海）

プログラム：

１）エコチル調査のいま「なんで 10 万組の親子なの？」
２）トーク①　10 万組の親子から考えるアレルギーについて「ちがうかもしれない！？これまでの常識」
　　トーク②　10 万組の親子から考える子どもをとりまく環境について「子どもといっしょにケータイ何時間？」
３）特別講演　10 万組の親子から考える子育てについて「尾木ママが語ります！
４）エコチル調査からのメッセージ

⑥エコチル調査５周年記念シンポジウム

平成 27 年度は、エコチル調査のリクルート開始後５年を記念し、平成 28 年１月 16 日（土）にエコチル調査５周年記念シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者約 260 名が参加した。

エコチル調査関係者が調査の進捗状況やデータを集計した結果について発表し、エコチル調査サポーターである化学物質の専門家が講演を行った。後半のパネルディスカッションでは、エコチル調査の集計結果を示しつつ、来場者の考えについてリアルタイムでアンケートをとることで、双方向性のある参加型イベントとした。

日　時：平成 28 年１月 16 日（土）14:00～16:10
場　所：日本科学未来館（東京都江東区青海）
プログラム：
１）基調講演　エコチル調査の５年間　－10 万組の親子からわかったこと－
２）特別講演　おしえて、北野先生！　子どもの健康と化学物質
３）パネルディスカッション
　　これからのエコチル調査　－10 万組の親子といっしょに－

⑦第６回エコチル調査シンポジウム

平成 28 年度は、平成 29 年２月 18 日（土）に第６回エコチル調査シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者約 220 名が参加した。

エコチル調査関係者が調査の進捗状況やデータを集計した結果について発表し、父親の子育て参加をテーマに、子育て世代の著名人とエコチル調査関係者が対談を行った。後半のパネルディスカッションでは、育児協力や生活環境について、著名人（父親代表）、母親代表、小児科医、エコチル調査関係者が意見を交換した。

日　時：平成 29 年 2 月 18 日（土）14:00～16:10
場　所：江戸東京博物館ホール（東京都墨田区）
プログラム：
１）基調講演　エコチル調査の概要　－生活環境からわかったことの紹介－
２）特別講演（対談）　新米パパから見た子育てについて
３）パネルディスカッション
　　子育てを支える色々な立場から見た子育てと生活環境

また、来場者へのエコチル調査への理解を促進するため、シンポジウムの会場前に、詳細調査の「訪問調査」で使う環境測定機器を展示し、説明を行った。

⑧第７回エコチル調査シンポジウム

平成 29 年度は、平成 30 年２月 10 日（土）に第 7 回エコチル調査シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者 193 名が参加した。

日　時：平成 30 年２月 10 日（土）13:00～15:00

場　所：日本科学未来館（東京都江東区青海）

プログラム：

１）基調講演　「エコチル調査」のこれまでとこれから

２）特別講演　妊娠・出産ホンマの話

３）パネルディスカッション　妊娠・出産をみんなで支えよう！

⑨エコライフ・フェアへの参加

環境省が主催するエコライフ・フェア 2019 に参加し、「エコチル調査」トークショーとして、中川環境大臣と女優の雛形あきこさんによるトークショーを行った。また、展示ブースに、親子向けの展示として、エコチル調査の展示物の出展を行った。

日　時：平成 30 年６月２日（土）～３日（日）

場　所：代々木公園イベント広場（東京都渋谷区）

⑩第８回エコチル調査シンポジウム

平成 31 年１月 19 日（土）に第８回エコチル調査シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者 190 名が参加した。

日　時：平成 31 年１月 19 日（土）13:30～16:00

場　所：日本科学未来館（東京都江東区青海）

プログラム：

１）基調講演　「エコチル調査」の今後の展望

２）特別講演　子育てで大切なこと

３）パネルディスカッション　安心して子育てできる社会へ

⑪第９回エコチル調査シンポジウム

令和２年２月 15 日（土）に第 9 回エコチル調査シンポジウムを開催した。一般公募の聴講者 158 名が参加した。

日　時：令和２年２月 15 日（土）13:30～16:00

場　所：星陵会館ホール（東京都千代田区）

プログラム：

１）特別講演　エコチル調査の夜明け

２）基調講演　エコチル調査の果実：調査の結果をどう社会に還元するか

３）パネルディスカッション　環境中の化学物質と私たち

⑫第 10 回エコチル調査シンポジウム

令和３年２月 21 日（日）に第 10 回エコチル調査シンポジウムを開催し、オンライ

ンによりライブ配信した。リアルタイムでは 256 人が視聴（最大同時接続数）し、令和３年３月末までに視聴回数 1,693 回を記録した。

日　時：令和３年２月 21 日（日）13:30～15:30

場　所：オンライン（YouTube 配信）

※後日環境省公式動画チャンネル（YouTube）に掲載し、エコチル調査 HP（下記 URL）に動画へのリンクを掲載

https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/promotion/movie.html

プログラム：

１）講演　エコチル調査 10 年のあゆみ

２）講演　研究成果の読み解き方

３）講演　社会が変わる研究成果

４）パネルディスカッション　エコチル調査の結果で、私たちの生活はどう変わるの？

⑬第 11 回エコチル調査シンポジウム

令和４年２月 20 日（日）に第 11 回エコチル調査シンポジウムを開催し、オンラインによりライブ配信した。リアルタイムでは 196 人が視聴（最大同時接続数）し、令和４年３月末までに視聴回数 1,272 回を記録した。

日　時：令和４年２月 20 日（日）13:30～16:00

場　所：オンライン（YouTube 配信）

※後日環境省公式動画チャンネル（YouTube）に掲載し、エコチル調査 HP（下記 URL）に動画へのリンクを掲載

https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/promotion/movie.html

プログラム：

１）講演　エコチル調査研究成果紹介

２）講演　未来を生きる子どもたちの現状と課題～エコチル調査から考える～

３）パネルディスカッション　私たちの健康と環境－エコチル調査によって子どもたちの未来がどのように変わるの？－

⑭第 12 回エコチル調査シンポジウム

令和５年２月 19 日（日）に第 12 回エコチル調査シンポジウムを開催し、オンラインによりライブ配信した。調査参加者の親世代、子ども世代の著名人が講演やパネルディスカッションに参加し、13 歳以降も調査を展開していく意義などについての理解を呼びかけた。また、一部のプログラムは子ども世代も理解し楽しむことができる内容とし、実験動画、クイズ等を盛り込んだ。

リアルタイムでは 238 人が視聴（最大同時接続数）し、令和５年３月 18 日までに視聴回数 1,527 回を記録した。

日　時：令和５年２月 19 日（日）14:00～16:00

場　所：オンライン（YouTube 配信）

※後日環境省公式動画チャンネル（YouTube）に掲載し、エコチル調査 HP（下記

URL）に動画へのリンクを掲載
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/promotion/movie.html

プログラム：

１）講演　おしえて！身の回りの化学物質とエコチル調査

２）講演　調査でわかってきたこと

３）パネルディスカッション これからのエコチル調査　～未来の健康と環境のために～

⑮第 13 回エコチル調査シンポジウム

令和６年２月 18 日（日）に、第 13 回エコチル調査シンポジウムを会場参加とオンラインのライブ配信によるハイブリットで開催した。調査参加者の親世代、子ども世代の著名人が講演やパネルディスカッションに参加し、13 歳以降も調査を展開していく意義などについての理解を呼びかけた。子ども世代が参加し楽しめる科学実験ショー、クイズ等をプログラムに盛り込み、双方向性コミュニケーションの場とした。

会場には一般公募の聴講者 62 名（うち小学生以下 12 名）が来場し、ライブ配信では 123 名が視聴（最大同時視聴者数）、令和６年２月 26 日 12 時時点で視聴回数 521 回を記録した。

日　時：令和５年２月 18 日（日）14:00～16:00

場　所：秋葉原コンベンションホール（東京都千代田区）、オンライン（YouTube 配信）

※後日環境省公式動画チャンネル（YouTube）に掲載し、エコチル調査 HP（下記 URL）に動画へのリンクを掲載
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/promotion/movie.html

プログラム：

１）講演　サイエンスエンターテイナー五十嵐美樹さんのサイエンスショーwith エコチル調査

２）講演　調査でわかってきたこと

３）パネルディスカッション エコチル調査のこれまでとこれから

⑯第 14 回エコチル調査シンポジウム

令和７年３月２日（日）に、エコチル調査の取組や調査で得られた成果等を分かりやすく紹介し、エコチル調査について多くの方々に理解を深めていただくとともに調査参加者の継続意識の向上につなげることを目的として、第 14 回エコチル調査シンポジウムを開催した。初めて関西圏（大阪市）における開催となり、見る聞くだけではなく、“発見・学習”につながる工夫と仕組み作りを実践（モノづくり体験、分析体験、クイズや質問コーナーなど）し、体験型展示を充実させた。シンポジウム当日は、調査参加者にスタッフとして参加してもらい、ボランティア証明書を授与した。

会場には延べ 250 名が来場した。

日　時：令和７年３月２日（日）13:00～16:15

場　所：なんばスカイオコンベンションホール（大阪市）

※専用 HP（下記 URL）を立ち上げ、環境省公式動画チャンネル（YouTube）に掲載し

た動画へのリンクを掲載した。
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2024/14th_symposium.html
プログラム：
１）第１部ワークショップ　「作ろう！測ろう！」分析体験
２）第２部トークショー　「聞こう！語ろう！」エコチル調査

⑰令和７年度「環境省こども霞が関見学デー」
令和７年８月６日（水）～７日（木）、令和７年度「環境省こども霞が関見学デー」へ『遊んで・学んで 君もエコチル調査博士？！』を出展した。エコチル調査の研究等に関する内容をクイズやツールを使って体験するプログラムを提供し、２日間で300名を超える方々が来場・参加した。
（詳細：開催報告）
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2025_kids_kengaku.html
日　時：令和７年８月６日（水）～７日（木）
場　所：東京都千代田区霞が関中央合同庁舎５号館

⑱第１回エコチル調査全国フォーラム
令和７年11月１日（土）～２日（日）、小学生、中学生、高校生およびその保護者の世代を主な対象とした、第１回エコチル調査全国フォーラムを東京大学本郷キャンパスにて開催した。全国規模のイベントを通じて、子ども達に「環境保健を知るための場」、「自己表現の場」、「様々な未来の可能性を知る場」を提供することで、
・子ども達自らが、エコチル調査結果等を用いた研究発表を行なう事によって科学的思考を育む。
・エコチル調査に関連するテーマの書道、かるた、短歌の公募を通して、「エコチル調査の意義」を国民に広める。
・エコチル調査の取組や調査で得られた成果等を分かりやすく紹介し、エコチル調査について多くの方々に理解を深めていただくとともに調査参加者の継続意識の向上につなげる。
ことを目的とした。
ノーベル化学賞受賞者である吉野彰氏（旭化成（株）名誉フェロー）の基調講演をはじめ、エコチル調査研究者による学術シンポジウム、小・中・高校生の研究発表、エコチル調査をテーマとした書道展・短歌展、競技かるた大会、オリジナルかるた大会など、多彩なプログラムを２日間にわたり実施し、当日は、子どもから大人まで、1,200人を超える方々に参加いただいた。また、関連団体の協力を得て、エコチル調査オリジナルかるた大会や、小倉百人一首競技かるた大会を実施し、多くの来場者に楽しんでいただいた。
フォーラムの周知のため公式HP（下記URL）を立ち上げ、書道・短歌・かるたを広く募集したところ、2,400件を超える応募があった。実施後には開催レポートや記録集を掲載した。
https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2025_forum.html

日　時：令和７年 11 月１日（土）～２日（日）
場　所：東京大学本郷キャンパス　伊藤国際学術研究センター・山上会館
主なプログラム：
・基調講演
・エコチル調査学術シンポジウム
・エコチル調査研究発表会
・エコチル調査書道展、エコチル調査短歌展
・競技かるた大会、エコチル調査オリジナルかるた大会

（２）記者向け勉強会の実施

マスコミ関係者のエコチル調査への理解を得て、エコチル調査の内容、進捗や成果を取り上げた記事が掲載されることを目的に、記者向け勉強会を開催している。

①日　時：平成 27 年１月 19 日（月）15：30～16：30
説明者：環境省環境リスク評価室長、コアセンター長代行、メディカルサポートセンター生体防御系内科部アレルギー科医長、山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
内　容：１）エコチル調査の概要・進捗状況
２）10 万組の親子から考えるアレルギーについて
３）10 万組の親子から考える子どもをとりまく環境について
４）今後の展望・第 4 回シンポジウムについて

②日　時：平成 28 年１月６日（水）13：00～14：00
説明者：環境省環境リスク評価室長、コアセンター長代行、メディカルサポートセンター生体防御系内科部アレルギー科医長、山梨大学大学院医学工学総合研究部教授
内　容：１）エコチル調査の概要・進捗状況
２）５年間で得られた集計結果について
３）５周年記念シンポジウムについて

③日　時：令和 3 年７月 19 日（月）18：00～19：00
説明者：健康と環境に関する疫学調査検討会座長、環境省環境リスク評価室長、国立環境研究所エコチル調査コアセンター長、コアセンター次長
内　容：健康と環境に関する疫学調査検討会　－エコチル調査の今後の展開－について

④日　時：令和 4 年２月 18 日（金）16：30～17：30
説明者：健康と環境に関する疫学調査検討会座長、環境省環境リスク評価室長、国立環境研究所エコチル調査コアセンター長、コアセンター次長
内　容：健康と環境に関する疫学調査検討会報告書（案）について

（３）ホームページ等による情報提供

エコチル調査ホームページを開設するとともに、パンフレットの作成・配布等を行い、広く一般国民に向けて情報提供を行っている。

ホームページでは、中心仮説に係る論文成果に関する各研究実施機関による報道発表について、エコチル調査ウェブサイトのトップページに新着情報として掲載を行っている。エコチル調査シンポジウムの動画及び資料、対話事業で作成した資料等についてもそれぞれのページに掲載を行っている。また、エコチル調査のホームページへのアクセス数の集計を行い、戦略広報委員会等で広報戦略を検討する際の基礎資料としている。

リクルート開始に先立つ平成 22 年末に、子育て世代により親しみを持っていただけるようホームページやパンフレットを一新した。

平成 23 年１月に、子育て世代からのアクセスを意識してモバイルサイトを開設、２月に政府公報・政府インターネットテレビの配信を行った。

平成 23 年９月には、報道関係者向けページを追加するとともに、英語版サイトを開設した。

平成 24 年度には、環境省動画チャンネルにエコチル調査のイメージムービーや参加者の声を紹介する動画を掲載し、それらをエコチル調査ホームページの「エコチル調査動画集」のページで紹介することとした。

平成 25 年度には、調査参加者に情報提供を行うことをねらいとして、エコチル調査ホームページ内に「参加者のひろば」ページを新設するとともに、参加者向けメールマガジンの配信を開始した。また、平成 26 年度以降本格的なフォローアップ期間に入ることを踏まえ、パンフレットとポスターを更新した。

平成 26 年度には、エコチル調査の社会的意義を広めるために、エコチル調査ホームページのコンテンツを整理し、全体的にリニューアルを行った。また、ホームページ全体がスマートフォンに表示できるよう対応した。

平成 27 年度より、リニューアルしたホームページ（スマートフォンにも対応）を公開した。

平成 28 年度は、ホームページについて計 10 回の更新を行った。

平成 29 年度は、内閣府の指針に沿ったホームページの仕様にするために、システム改築（CMS 化、アクセシビリティ準拠）のための作業に着手し、新たに研究者向けのページを設けシステムの改築を行った。

平成 30 年度は、論文とともに成果発表一覧への和文抄録の掲載を開始した。

令和元年度以降、引き続き、論文とともに成果発表一覧への和文抄録の掲載を行った。

令和５～６年度、調査の概要や継続の意義等に関する動画を YouTube の環境省動画チャンネルで配信した。

令和７年度、ノーベル化学賞受賞者である田中耕一氏（（株）島津製作所）からエコチル調査へいただいたメッセージを YouTube の環境省動画チャンネルで配信した。

（４）エコチル調査サポーター登録

エコチル調査に対する社会全体の理解と応援を得ることを目的として、平成 22 年 11 月、「エコチル調査サポーター登録制度」を設けた。調査の趣旨に賛同した方にサポーター登録（個人サポーター）をしていただき、調査の最新情報を掲載したメールマガジンを配信している。

さらに、調査の趣旨に賛同する企業・団体をエコチル調査「企業・団体サポーター」として登録し、店舗へのポスター掲示、ウェブサイトでの紹介など、調査の認知度向上に向けた広報活動への協力を依頼。企業等の協力にあたっては、平成 23 年８月に「環境省エコチル調査企業・団体サポーター規約」を策定し、規約にのっとり、登録申請の審査と各企業による活動の確認を行う。

令和７年度、エコチル調査のより効果的・効率的な推進に資するよう、一般市民、研究者、有識者、企業・団体等の応援・協力を得るためサポーター制度を改定し、あわせて「環境省エコチル調査企業・団体サポーター規約」を改定した。

（５）広報活動の効果測定と評価

①エコチル調査の露出度測定

キックオフイベント時には、新聞・業界紙 59 件、Web 媒体 55 件の報道があり、環境省記者クラブ向け勉強会からリクルート開始時にかけては、新聞・業界紙 76 件、Web 媒体 88 件の報道があった。

１周年記念シンポジウム及び国際シンポジウム in 北九州の前後には、新聞・業界紙 33 件、Web 媒体 147 件の報道があった。

2 周年記念シンポジウムの前後は、新聞・業界紙 52 件、Web 媒体 73 件の報道があった。

国際シンポジウム in 名古屋及び３周年記念イベントの前後は、新聞・業界紙９件、Web 媒体 25 件の報道があった。

平成 27 年度に開催された、第４回国際シンポジウムの前後は、新聞・業界紙 36 件、Web 媒体 69 件の報道があった。また、５周年記念シンポジウムの前後は、新聞・業界紙 98 件、Web 媒体 291 件の報道があった。

平成 28 年度は、新聞・雑誌記事掲載件数は、27 件であった。また、Web サイトの掲載件数は 139 件であった。

平成 29 年度は、新聞・雑誌記事掲載件数は、64 件であった。また、Web サイトの掲載件数は 106 件であった。

平成 30 年度は、新聞・雑誌記事掲載件数は、81 件であった。また、Web サイトの掲載件数は、314 件であった。

令和元年度は、新聞・雑誌記事掲載件数は、70 件であった。また、Web サイトの掲載件数は、68 件であった。

令和２年度は、測定期間中（令和２年７月 27 日～令和３年２月 28 日）における、新聞・雑誌記事掲載件数は、59 件であった。また、Web サイトの掲載件数は、168 件であった。

令和３年度は、測定期間（令和３年４月１日～令和４年２月 28 日）における、新聞・雑誌記事掲載件数は、74 件であった。また、Web サイトの掲載件数は 336 件であった。

令和４年度は、測定期間（令和４年４月１日～令和５年２月 28 日）における、新聞・雑誌記事掲載件数は、104 件であった。また、Web サイトの掲載件数は 373 件であった。

令和５年度は、測定期間（令和５年４月１日～令和６年３月 31 日）における、新聞・雑誌記事掲載件数は、162 件であった。Web サイトの掲載件数は 808 件であった。また、X（旧 Twitter）におけるエコチル調査に関するポスト件数を把握したところ、上記測定期間における件数は 624 件（リポスト数を除いた件数）であった

令和６年度は、測定期間（令和６年４月１日～令和７年３月 31 日）における、新聞・雑誌記事掲載件数は、103 件であった。Web サイトの掲載件数は 533 件であった。また、X（旧 Twitter）におけるポスト件数は 562 件（リポスト数を除いた件数）であった。

令和７年度は、測定期間（令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）における、新聞・雑誌記事掲載件数は、116 件であった。Web サイトの掲載件数は 576 件であった。

（※令和７年度は X（旧 Twitter）におけるポスト件数は測定せず。）

②エコチル調査の認知状況の把握（認知度調査の実施）

平成 23 年度	調査期間：平成 24 年３月 23 日（金）～平成 24 年３月 27 日（火） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：エコチル調査対象地域（15 地域）及び東京都 回答者数：3,200 人（200×16 地域） 結果の概要： ・調査対象地域では、５人のうち１人が、エコチル調査の存在を認知。 ・「自分の子が生まれる予定の人」の場合、約７割の人がエコチル調査の存在を認知。 ・回答者全体のうちの約７割が、エコチル調査は重要であると評価。
平成 24 年度	調査期間：平成 25 年３月 22 日（金）～平成 25 年３月 26 日（火） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：エコチル調査対象地域（15 地域※）及び東京都 ※ただし、福島は、平成 24 年 10 月に調査対象地域を全県に拡大したことを踏まえ、全県化以前の旧調査対象地域と、拡大した地域の双方を対象として調査を行った。 回答者数：3,400 人（200 人×15 地域（福島以外）＋ 400 人×１地域（福島）） 結果の概要： ・調査対象地域では、５人のうち１人が、エコチル調査の存在を認知。 ・「自分の子が生まれる予定の人」の場合、約７割の人がエコ

	チル調査の存在を認知。 ・回答者全体のうちの約７割が、エコチル調査は重要であると評価。 ・平成 23 年度の調査結果と比較して、地域によって増減はあるが横ばい。記憶には忘却があることを考慮すると、エコチル調査の広報活動は一定の成果を上げていると評価できる。
平成 25 年度	調査期間：平成 26 年２月 25 日（火）～平成 26 年２月 27 日（木） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：エコチル調査対象地域（15 地域）及び東京都 ※各都道府県の全域で調査。 回答者数：3,360 人（210 人×16 地域） 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は、調査地域で 20%。東京では 13%。 ・「テレビ」「新聞」「ネット」が認知経路として主。 ・「エコチル調査」の重要度は 68%。０-５歳の子どもがいる層では８割前後と高い。 ・ 公表して欲しい「エコチル調査」の結果は「環境要因」「震災・放射能」「PM2.5・中国環境汚染」「化学物質」など、“大気”に関わる内容が比較的多く挙がる。
平成 26 年度	調査期間：平成 27 年３月 18 日（水）～平成 27 年３月 20 日（金） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：3,800 人（200 人×15 地域＋200 人（東京）＋600 人（その他 28 県）） 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は、調査対象地域で 12%。調査対象地域外で５～６%。 ・調査対象地域の認知度は平成 25 年度と比較して低下している。その理由はフォローアップ期間に入り、ユニットセンターにおける広報活動が広く地域住民を対象とするものから調査参加者に重点を置いたものにシフトしたことによると考えられる。 ・エコチル調査を重要と考える人は 61%。関心・興味のある人は 43%。
平成 27 年度	調査期間：平成 28 年３月 16 日（水）～平成 27 年３月 17 日（木） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県

	※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：4,984 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は全国で７％、調査対象地域で９％。調査対象地域外で６％。 ・エコチル調査を重要と考える人は 57%。関心・興味のある人は 38%。
平成 28 年度	調査期間：平成 29 年２月 23 日（木）～平成 29 年２月 26 日（月） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：4,984 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は全国で 8%、調査対象地域で９％。調査対象地域外で７％。 ・エコチル調査を重要と考える人は 57%。関心・興味のある人は 38%。
平成 29 年度	調査期間：平成 30 年２月 23 日（木）～平成 30 年２月 26 日（月） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：4,984 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は全国で 8.0%、調査対象地域で 8.7%。調査対象地域外で 7.3%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 57.7%。関心・興味のある人は 40.8%。 ・性年代別の認知度で比較的高かったのは女性 20 代（16.4%）と男性 30 代（16.3%）
平成 30 年度	調査期間：平成 31 年２月 26 日（火）～平成 31 年３月４日（月） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：4,984 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は全国で 7.3%、調査対象地域で 8.3%。調査対象地域外で 6.2%。

	・エコチル調査を重要と考える人は 68.3%。関心・興味のある人は 49.5%。 ・性年代別の認知度で比較的高かったのは男性 20 代（26.6%）と男性 30 代（15.8%）
令和元年度	調査期間：令和２年２月 14 日（金）～令和２年２月 17 日（月） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の 1 都 28 県で調査。 回答者数：4,989 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知は全国で 11.4%、調査対象地域で 13.8%。調査対象地域外で 7.4%。 ・性年代別の認知度で比較的高かったのは男性 20 代（21.5%）と男性 30 代（20.9%）。
令和２年度	調査期間：令和３年２月 13 日（土）～令和３年２月 15 日（月） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の 1 都 28 県で調査。 回答者数：4,977 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 10.5%、調査対象地域で 10.6%。調査対象地域外で 7.1%。 ・性年代別の認知度で比較的高かったのは男性 20 代（17.2%）と男性 30 代（17%）。
令和３年度	調査期間：令和４年２月 17 日（木）～令和４年２月 21 日（月） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：5,000 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 13.5%、調査対象地域で 14.9%。調査対象地域外で 8.9%。 ・　性年代別の認知度で比較的高かったのは男性 20 代（22.0%）と男性 30 代（21.2%）。
令和４年度	調査期間：令和５年３月３日（金）～令和５年３月７日（火） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他

	の１都 28 県で調査。 回答者数：4,983 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 6.2%、調査対象地域で 7.5%。調査対象地域外で 5.4%。
令和５年度	調査期間：令和６年２月 22 日（木）～令和６年２月 28 日（水） 調査対象：20 歳～69 歳の男女 調査地域：47 都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある 18 道府県と、その他の１都 28 県で調査。 回答者数：4,983 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 7.0%、調査対象地域で 7.7%。調査対象地域外で 7.5%。

③医師を対象とした認知度調査の実施

平成 30 年度	調査期間：平成 30 年 11 月 調査対象：医師（日経メディカル Online の医師会員） 回答者数：3,173 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 39.4%、調査対象地域で 43.8%。調査対象地域外で 34.8%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 83.4%。関心・興味のある人は 68.8%。
令和元年度	調査期間：令和元年 11 月下旬～12 月上旬 調査対象：医師（日経メディカル Online の医師会員） 回答者数：919 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 37.5%、調査対象地域で 41.7%。調査対象地域外で 33.7%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 84.5%。関心・興味のある人は 70.0%。
令和２年度	調査期間：令和３年２月上旬 調査対象：医師（日経メディカル Online の医師会員） 回答者数：919 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 45.2%、調査対象地域で 50.4%。調査対象地域外で 40.1%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 86.6%。関心・興味のある人は 72.3%。

令和３年度	調査期間：令和４年２月上旬 調査対象：医師（日経メディカル Online の医師会員） 回答者数：918 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 48.9%、調査対象地域で 51.7%。調査対象地域外で 48.3%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 88.1%。関心・興味のある人は 73.5%。
令和４年度	調査期間：令和５年３月３日（金）～令和５年３月７日（火） 調査対象：医師（日経メディカル Online の医師会員） 回答者数：917 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 42.0%、調査対象地域で 54.5%。調査対象地域外で 37.5%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 82.9%。関心・興味のある人は 68.1%。
令和５年度	調査期間：令和６年２月 22 日（木）～令和６年２月 26 日（月） 調査対象：医師（日経メディカル Online の医師会員） 回答者数：900 人 結果の概要： ・「エコチル調査」の認知度は全国で 47.9%、調査対象地域で 51.3%。調査対象地域外で 41.9%。 ・エコチル調査を重要と考える人は 84.1%。関心・興味のある人は 68.1%。

（６）展示物の活用

エコチル調査の認知度向上及び内容理解促進を目的として、全国の科学館で巡回展示を行うための展示物を平成 29 年度に作成し、平成 30 年度８月から全国の科学館で展示を開始した。また、需要の高まりを受けて、エコチル調査関係者が調査地域等で展示を行うための展示物を作成し、平成 30 年 10 月頃から、調査関係者への貸出しを開始した。

①令和元年度実績

貸出数：科学館６箇所、ユニットセンター等４箇所

②令和２年度実績

貸出数：科学館４箇所

※６箇所の科学館から申込みがあったが、新型コロナウイルスの影響のため、１箇所は貸出中止、１箇所は臨時休館となり使用せず。また、ユニットセンター等への貸出実績はなし。

③令和３年度実績
貸出数：科学館４箇所、ユニットセンター等１箇所

④令和４年度実績
貸出数：ユニットセンター１箇所

⑤令和５年度実績
貸出数：科学館２箇所、ユニットセンター等１箇所

⑥令和６年度実績
貸出数：科学館６箇所、ユニットセンター１箇所

⑦令和７年度実績
貸出数：科学館５箇所、自治体等３箇所

（７）地域の子育て世代との対話

エコチル調査の成果を活用得し子育て世代と関係者が化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会を広げるため、「地域の子育て世代との対話」を令和元年度から実施している。令和元年度から３年度にかけて作成した、調査結果をわかりやすく伝えるＱ＆Ａを含む成果紹介パンフレット及び対話の実践に向けた事例集等を令和４年６月に環境省エコチル調査ホームページに公開し、エコチル調査関係者、関係省庁、学会等に周知を行った。令和５年度は、小中学生や教育関係者を対象に３箇所で対話の実践を行い、令和元年度の事業開始以降、地域における対話の実践例は合計 23 になった。

１）地域における対話の実践

①令和元年度

開 催 日：令和元年 11 月 18 日（月） 場　　所：熊本県天草市 主な対象：子育て支援関係者、子育て中の親 参加人数：11 人
開 催 日：令和元年 12 月 4 日（水） 場　　所：茨城県つくば市 主な対象：子育て支援関係者 参加人数：14 人
開 催 日：令和元年 12 月 8 日（日） 場　　所：熊本県天草市 主な対象：子育て中の親 参加人数：70 人

開 催 日：令和元年 12 月 12 日（木） 場　　所：新潟県新潟市 主な対象：大学院生 参加人数：34 人
開 催 日：令和２年１月 14 日（火） 場　　所：滋賀県長浜市 主な対象：子育て支援関係者 参加人数：20 人
開 催 日：令和２年１月 16 日（木） 場　　所：東京都江東区（日本科学未来館） 主な対象：市民 参加人数：5 人
開 催 日：令和２年１月 23 日（木） 場　　所：茨城県守谷市 主な対象：子育て支援関係者 参加人数：16 人
開 催 日：令和２年１月 30 日（木） 場　　所：東京都江東区（日本科学未来館） 主な対象：市民 参加人数：7 人
開 催 日：令和２年２月８日（土） 場　　所：茨城県つくば市 主な対象：市民 参加人数：9 人
開 催 日：令和２年２月 13 日（木） 場　　所：東京都国分寺市 主な対象：子育て支援関係者 参加人数：4 人

②令和２年度

開 催 日：令和２年 12 月 16 日（木） 場　　所：新潟県新潟市 主な対象：大学院生 参加人数：13 人
開 催 日：令和３年１月 23 日（土） 場　　所：福岡県福岡市（オンライン） 主な対象：市民・企業人等 参加人数：22 人

③令和３年度

開 催 日：令和３年 11 月 25 日（木） 場　　所：神奈川県藤沢市（対面・オンライン併用） 主な対象：大学生

参加人数：12 人
開 催 日：令和３年 12 月 17 日（金） 場　　所：新潟県新潟市（対面・オンライン併用） 主な対象：大学院生 参加人数：17 人
開 催 日：令和４年１月 21 日（金） 場　　所：鳥取県鳥取市（対面・オンライン併用） 主な対象：市民、大学教職員 参加人数：18 人
開 催 日：令和４年１月 27 日（金） 場　　所：オンライン 主な対象：企業（出産・育児） 参加人数：5 人
開 催 日：令和４年２月 24 日（木） 場　　所：東京都港区（対面・オンライン併用） 主な対象：企業（食品） 参加人数：13 人

④令和４年度

開 催 日：令和４年 12 月 17 日（土） 場　　所：新潟県新潟市（対面・オンライン併用） 主な対象：大学院生 参加人数：19 人
開 催 日：令和５年２月４日（土） 場　　所：高知県高知市（対面・オンライン併用） 主な対象：大学院生、保健・教育関係者等 参加人数：26 人
開 催 日：令和５年３月２日（木） 場　　所：東京都中野区 主な対象：子育て支援関係者及び教育関係者 参加人数：７人

⑤令和５年度

開 催 日：令和６年１月 27 日（土） 場　　所：山梨県身延市（対面） 主な対象：教育関係者 参加人数：8 人
開 催 日：令和６年２月 11 日（日） 場　　所：大分県大分市（対面） 主な対象：小中学生 参加人数：17 人
開 催 日：令和６年２月 17 日（土） 場　　所：東京都千代田区

主な対象：教育関係者 参加人数：５人

２）地域の子育て世代との対話事業の関連資料

・子どもの健康と環境に関する全国調査「エコチル調査」成果紹介パンフレット（令和４年６月、令和６年４月改訂）
・環境省「エコチル調査」に係る化学物質に関するテキスト（令和４年６月）
・「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に関する効果的な対話の実践に向けた事例集（令和４年６月）
・『「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に関する効果的な対話の実践に向けたデザインブック～企画・実践方法と事例～』第 2.1 版（令和４年６月、令和５年４月・令和６年４月改訂）

（８）エコチル調査の成果の情報発信

エコチル調査を通して得られた科学的成果の情報発信及び社会還元を図るため、令和４年度及び令和５年度、妊娠・育児期の方やその関係者等を対象に、エコチル調査の成果等に関する分かりやすい記事を作成し、妊娠・育児期の方等がアクセスしやすい WEB サイト（たまひよ WEB 版）に掲載した（計６回）。また、より多くの対象者等に読んでいただくため、SNS などを通して周知を行った。

記事掲載の効果を測定するため掲載期間中のページビュー（Web サイトのページにアクセスがあった回数）を把握したところ、令和４年度は、令和 4 年 11 月 7 日～12 月 19 日に 48,581 ページビューが得られた。令和５年度は、令和６年２月５日～３月 15 日に 75,802 ページビューが得られた。

①令和４年度

掲載日	記事タイトル及び URL
11 月 7 日	約 10 万人のビッグデータを分析！「３才までのアレルギーの実態」「妊娠週数別、体重増加量の目安」などがあきらかに https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=142360 ページビュー：14,930（令和４年 11 月７日～12 月５日）
11 月 14 日	自分が吸っていなくてもリスクあり！ 妊娠中のたばこ…赤ちゃんの「ぜんそく発症」や「出生体重の低下」と関連が？ https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=143150 ページビュー：15,050（令和４年 11 月 14 日～12 月 12 日）
11 月 21 日	体重管理、これは避けたい！妊娠中期以降の「〇〇しすぎ」は赤ちゃんにリスクが！？ https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=144301 ページビュー：18,601（令和４年 11 月 21 日～12 月 19 日）

②令和５年度

掲載日	記事タイトル及び URL
２月５日	「湿疹」「アトピー性皮膚炎」…●●生まれは要注意!? 生後 6 カ月までの「季節」と「発症」に関係があるって本当? 【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ikuji/content/?id=184225 ページビュー：29,632（令和６年２月５日～３月４日）
２月 13 日	“気になる研究結果” 妊娠前からの「朝食抜き」習慣が、妊娠糖尿病につながるかも !？【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=184243 ページビュー：20,775（令和６年２月 13 日～３月 12 日）
２月 16 日	出生体重に影響も…「少なすぎも多すぎもダメ！」赤ちゃんの成長にちょうどいい「たんぱく質」量って？【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=184731 ページビュー：25,395（令和６年２月 16 日～３月 15 日）

（９）関係機関の会議・学会等における講演など

①令和２年度

・令和２年 10 月 15 日
　農林水産省の職員向け「令和２年度第３回食品安全に係る科学セミナー」

②令和３年度

・令和３年８月 20 日
　（一社）日本化学工業会主催「日化協 LRI 研究報告会」
・令和３年９月 13 日
　東京事務所環境省担当者連絡会（めだか会）
　「令和４年度環境省予算概算要求説明会」
　＊めだか会：各地方公共団体（都道府県＋政令市＋中核市等）東京事務所の環境省担当者の集まり
・令和３年 10 月１日
　厚生労働省、経済産業省、環境省の３省による
　「第６回新たな化学物質管理の在り方に関する管理職級検討会」
・令和３年 10 月 20 日
　（公社）日本産婦人科医会主催「定例記者懇談会」
・令和３年 12 月 23 日
　第 80 回日本公衆衛生学会学術集会

③令和４年度

・令和４年４月 22 日
令和４年度地方公共団体化学物質対策担当者説明会
・令和４年 10 月８日
第 81 回日本公衆衛生学会総会
・令和４年 10 月 17 日から 10 月 28 日（講演動画公開期間）
（株）化学工業日報社主催「ケミカルマテリアル Japan2022 -ONLINE-」
・令和５年１月 27 日
第７回アレルギー疾患対策関係省庁連絡会議

④令和５年度

・令和５年４月 21 日
令和５年度地方公共団体化学物質対策担当者説明会
・令和５年 10 月 23 日（月）～11 月 27 日（月）※講演動画公開期間
ケミカルマテリアル Japan2023-ONLINE-
・令和６年３月 15 日
第８回アレルギー疾患対策関係省庁連絡会議

⑤令和６年度

・令和６年４月 19 日
令和６年度地方公共団体化学物質対策担当者説明会
・令和６年 10 月 30 日
第 83 回日本公衆衛生学会総会で講演
・令和７年３月 14 日
第９回アレルギー疾患対策関係省庁連絡会議

⑥令和７年度

・令和７年４月 25 日
令和７年度地方公共団体化学物質対策担当者説明会
・令和８年１月 28 日
一般社団法人産業環境管理協会産業と環境の会センター主催　環境問題検討会
・令和８年１月 30 日
第 10 回アレルギー疾患対策関係省庁連絡会議
・令和８年３月９日～12 日
日本農芸化学会 2026 年度大会
・令和８年３月 11 日
NIBN×環境省連携シンポジウム「エコチル調査の可能性 ～国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所とエコチル調査の連携で築き上げる未来」
・令和８年３月 19 日～21 日
第 96 回日本衛生学会学術総会

・令和８年３月 26 日～28 日
第 23 回日本臨床腫瘍学会学術集会
・令和８年３月 26 日～29 日
日本薬学会第 146 年会

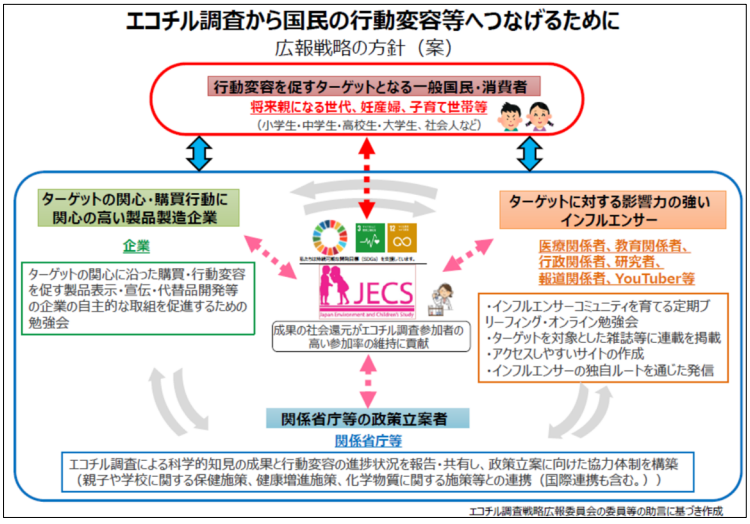
以上のほか、令和７年度には、エコチル調査に関連する様々な業種の企業にエコチル調査の概要説明を行うとともにエコチル調査との連携等について意見交換を実施した。また、大学等の授業における講演（７月・１月信州大学、10 月群馬大学）も行った。

（１０）広報戦略指針等の改定

平成 23 年３月に「エコチル調査の広報戦略」にて、エコチル調査広報の考え方等がリクルートの時期を主眼とし、取りまとめられた。リクルートは平成 26 年３月に終了し、現在は参加者のフォローアップ期と調査の解析期が重複するフェーズに入った。広報戦略もフェーズに合わせた内容に変えていくことが効果的な広報に繋がるため、平成 29 年度に広報の考え方等を見直し、広報の指針の検討を戦略広報委員会の中で行い、平成 30 年度に「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針」を取りまとめた。

平成 30 年度には、調査開始後８年が経過し、データの集積、論文成果が進み、社会への成果の還元と効果的・効率的な調査の実施が求められるフェーズを迎えていることから、関係者がより一層連携を密にして、取組を進める上での基本的な考え方を示すため、平成 30 年度に企画評価委員会で意見をいただいた上で「エコチル調査の今後の方針について」を取りまとめた。

また、令和３年度には、エコチル調査の成果を国民の行動変容等につなげるための考え方を整理した「広報戦略の方針（案）」が、『「健康と環境に関する疫学調査検討会報告書」―エコチル調査の今後の展開について―』（令和４年３月 29 日、健康と環境に関する疫学調査検討会）の参考資料に示された。



令和４年度に、平成 30 年度に作成した「子どもの健康と環境に関する全国調査（エ

コチル調査）の広報戦略指針」を、調査の進捗状況（参加者が学童期）、成果の状況（論文成果増・ガイドライン等への活用開始）、エコチル調査基本計画の改定を踏まえて見直し、参加者が 18 歳に達するまで（2028 年度まで）を対象期間とした、より効果的な広報の実施のため改定を行った。また、調査のフェーズに併せた広報戦略を別途作成した。

改定にあたり、「エコチル調査戦略広報ワーキンググループ」を開催（全３回）し、改定内容を議論した。ワーキンググループが取りまとめた改定案を戦略広報委員会並びに参加者コミュニケーション専門委員会で議論いただき、令和５年３月に広報戦略指針等を改定した。

第１回エコチル調査戦略広報ワーキンググループ 令和４年 10 月 24 日（月）　※会場及び Web 開催 検討事項　広報戦略指針等の改定内容の具体的検討
第２回エコチル調査戦略広報ワーキンググループ 令和４年 11 月 21 日（月）　※会場及び Web 開催 検討事項　改定案検討
第３回エコチル調査戦略広報ワーキンググループ 令和５年１月 23 日（月）　※会場及び Web 開催 検討事項　ワーキンググループによる改定案取りまとめ
第 43 回参加者コミュニケーション専門委員会（コアセンター主催） 令和５年２月 14 日（火）　※会場及び Web 開催 検討事項　改定案について議論
第３回エコチル調査戦略広報委員会 令和５年３月９日（木）　※会場及び Web 開催 検討事項　改定案について議論

（１１）その他の取組

〇エコチル調査ポスターの掲出

エコチル調査の認知度向上を目的として、リクルート時に調査対象地域を中心としてポスターを掲出した。掲出先は、より効果的・効率的に認知度向上を図れるよう、調査参加者やその家族が利用や勤務をしている、ベビー用品店チェーン、大規模店舗、銀行、その他事業所を選定した。

４．倫理審査

エコチル調査の実施にあたっては、これまでは、環境省の「疫学研究に関する審査検討会」において倫理審査を受けており、調査期間中、定期的に同検討会に対して進捗状況を報告し、倫理的事項について助言と指導を受けること、また、研究計画を変更する場合も、同委員会の審査を受けることとされていた。

①平成 21 年 12 月 15 日　平成 21 年度第３回検討会

- 概要説明、意見交換

②平成 22 年２月 25 日　平成 21 年度第４回検討会

- 概要説明、意見交換

③平成 22 年３月 23 日　平成 21 年度第５回検討会

- 事務局よりエコチル調査に関する研究計画書（案）、審査申請書（案）及び説明文書・同意書文（案）が提示され、調査の詳細に関する説明、その確認が行われた。
- エコチル調査ワーキンググループ倫理安全班により、同研究計画書の倫理的側面についての説明、意見交換が行なわれた。
- 調査する発育・発達状況について委員から、流産などで子どもが生まれなかった場合は含まないのか質問があり、データとして残すことを説明した。
- 出産後の確認欄について委員より、サイン欄の上に「代筆者として上記の新生児がエコチル調査に参加することを確認いたします。」と追記するよう意見があった。
- 同意取消依頼書について委員より、個人データと試料の取扱いを切り分ける、匿名化した上で利用を認める等の観点から選択肢を追加するよう意見があった。
- 倫理的観点からの問題は特に認められず、上記について対応することを前提として、適と判断された。

④平成 22 年 8 月 25 日　平成 22 年度第２回検討会

- 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより前回審査において適とされた研究計画書等 の追加、修正、変更点を重点的に、調査概要の説明が行われた。
- 本調査においては参加者から提供された生体試料の長期保存を行い、必要に応じて、ゲノム・遺伝子解析を含めた検査を行う観点から、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）も踏まえて審議が行われた。
- 参加者から同意撤回の申し出があった場合のデータ及び生体試料の取扱について確認があった。
- 本調査で得られたデータ及び参加者から提供された生体試料の提供のあり方について、環境省としての方針の確認があった。
- 採血のリスクについて明示し、適切な文章とするよう求められた。
- 倫理的観点からの問題は特に認められず、上記について対応することを前提として、適と判断された。

⑤平成 23 年２月１日　平成 22 年度第３回検討会

- 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」における研究計画の一部の変更内容について説明が行われ、委員持ち回りにて了承されたことが報告された。
- さい帯血バンクに参加を希望する者は、エコチル調査におけるさい帯血は採取しないことについて説明が行われ、他の生体試料の分析データでできる限り補う等の確認があった。
- 遺伝子解析やバンクに関し、具体的な研究計画が作成された時点で受けた倫理審査結果に基づき必要な手順を踏むこととしているが、包括的な同意などのあり方について、倫理指針にかかる議論の動向も踏まえながら検討すべきとの意見があった。
- 必要な財源を確保しながら、エコチル調査の当初の目的が遂行されるようにとの意見があった。

⑥平成 23 年９月 27 日　平成 23 年度第１回検討会

- 進捗状況報告

⑦平成 24 年８月２日　平成 24 年度第１回検討会

- 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、福島ユニットセンターの調査地区の拡大等、研究計画書等の追加、修正、変更点の説明が行われた。
- 個人情報の削除を伴う調査協力の取りやめを行う場合、「個人情報」の範囲を限定するのではなく、個人を特定できない状態にすることを明確化すべきとの意見があった。
- 福島における調査地域の拡大について、その科学的妥当性について議論があり、仮説検証を目的とした調査デザインを放射線被ばくの場合に適用することは困難と考えられる一方、万が一、高被ばく群においてオッズ比が非常に大きくなるような何らかの健康影響が現れた場合には、エコチル調査で収集されるデータを解析することによって、放射線被ばくによる影響を把握できる可能性があること、今後、低線量放射線被ばくによる人への健康影響に関する新たなバイオマーカーが開発された場合には、長期冷凍保存される血液等の生体試料を分析することによっても、健康影響を検討することが可能となること等について、追加説明を行った。
- 今後、調査の実施にあたり、放射線影響の専門家の助言を受けるなど、科学的な意義のある調査となるよう努めるべきとされた。
- 倫理的観点からの問題は特に認められず、上記について対応することを前提として、適と判断された。

⑧平成 26 年２月 21 日　平成 25 年度第２回検討会

- 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、詳細調査計画の策定とそれに伴う研究計画書の一部変更について説明。
- 研究計画書に、詳細調査における採血量も記載すべきとの指摘があった。

・ 詳細調査説明書の、「調査協力の取りやめ」は、わかりやすい記載とすべきとの指摘があった。
・ 採血時の疼痛緩和については、対象者に十分な情報提供ができるよう、できるだけ丁寧に詳細な説明を記載することが望ましいとの指摘があった。
・ 倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

⑨平成 26 年６月 26 日　平成 26 年度第１回検討会
・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、詳細調査における調査手法の一部を変更したため、その変更内容について説明。
・ 採血時の疼痛緩和に使用する外用局所麻酔剤「エムラクリーム」及び「ペンレステープ」の使用については、医師が対象者の既往歴等を考慮し、使用が可能であると判断した場合には、対象者にできるだけ丁寧に詳細な説明をし、十分な情報を提供した上で、使用の希望の有無を確認し、同意を得る必要があるとの指摘があった。
・ 対象者への説明において、「アナフィラキシー」及び「ショック」について、対象者にわかりやすいように補足説明を加える必要があるとの指摘があった。
・ 倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

⑩平成 27 年２月９日　平成 26 年度第２回検討会（簡易審査）
・ 詳細調査で行う血液検査の検査項目に係る詳細調査研究計画書の記載に微妙な変更を行ったため、その変更内容について審査を申請した。
・ 倫理的観点からの問題は特に認められず、適と判断された。

⑪平成 30 年７月 12 日　平成 30 年度第１回疫学研究に関する審査検討会
・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について説明。
・ 審議により、『「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」としては、国立環境研究所の倫理審査委員会等において、十分に審査を行うこと、今後は「疫学研究に関する審査検討会」にて経過の報告を受け、助言を行う』こととされた。

⑫令和元年９月 12 日　令和元年度第１回疫学研究に関する審査検討会
・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。

⑬令和２年９月 11 日　令和２年度第１回疫学研究に関する審査検討会
・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。

⑭令和３年８月 31 日　令和３年度第１回疫学研究に関する審査検討会
・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。

⑮令和４年９月１日　令和４年度第１回疫学研究に関する審査検討会

・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。また、令和４年度の基本計画改定に伴う研究計画の変更については、国立環境研究所の「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会」の審査を受け、承認された。

⑯令和５年９月 21 日　令和５年度第１回疫学研究に関する審査検討会

・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。

⑰令和６年７月 31 日　令和６年度第１回疫学研究に関する審査検討会

・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。

⑱令和７年 12 月３日　令和７年度第３回疫学研究に関する審査検討会

・ 国立環境研究所エコチル調査コアセンターより、エコチル調査の進捗状況について報告。